岡山市立市民病院
内科専門研修プログラム

2027 年度版

内科専門医研修プログラム‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ P.1
専門研修施設群‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P.18
専門研修プログラム管理委員会‥‥‥‥‥‥‥‥‥P.94
岡山市立市民病院疾患群症例病歴要約到達目標‥P.96
週間スケジュール‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥P.97



岡山市立市民病院内科専門研修プログラム

1.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1）本プログラムは、岡山県の中心に位置する岡山市西部の重要な急性期病院である地方独立行政法人岡山市立総合医療センター岡山市立市民病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）を基幹施設として、岡山県南東部に加え岡山県内の医療圏全域にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て岡山県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として岡山県全域を支える内科専門医の育成を行います.

2）初期臨床研修を修了した内科専門医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります．そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

1）岡山県岡山市および岡山県内全域の医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4）将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1）本プログラムの通常プログラムは、岡山県の中心に位置する岡山県岡山市西部の重要な急性期病院である岡山市立市民病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）を基幹施設として、岡山県南東部に加え岡山県内の医療圏全域にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります.

2）岡山県は日本専門医機構を主導とした内科後期研修医数のシーリングを適応されています。岡山市立市民病院のプログラムでは、非シーリング県での研修を担保する連携プログラムを策定しています。実際の研修期間は基幹施設 1.5 年間＋岡山県以外の非シーリング県の施設 1.5 年間の 3 年間になります．非シーリング県での研修については、基幹施設・連携施設・特別連携施設を問いません。

3）岡山市立市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

4）基幹施設である岡山市立市民病院は、岡山県岡山市西部を中心とした医療圏の重要な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります．一方で、岡山県内の自治体病院群を統括する施設として地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

5）基幹施設である岡山市立市民病院での 1.5 年間（専門医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして、専門医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.90 別表 1「岡山市立市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

6）岡山市立市民病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目～3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します.

7）基幹施設である岡山市立市民病院での２年間と専門研修施設群での１年間（専門医３年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P.90 別表１「岡山市立市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

岡山市立市民病院内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして、岡山県の医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です．

2.募集専門医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、岡山市立市民病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専門医数は 1 学年９名とします．

1）岡山市民病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 12 名で 1 学年 7 名までの実績があります．
2）2015 年度から新病院移転に際し、指導医の増員と救急搬送数の増加もあり、下記の実績も考慮し、外来患者診療も含め内科専門医 1 人に年間 120 人の症例を受け持つことが可能です．
3）病理解剖検体数は 2024 年度 13 体、2023 年度 10 体、2022 年 4 体です．

表．岡山市立市民病院診療科別診療実績

2025 年度実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	1,445	17,324
循環器内科	650	8,237
糖尿病内科	248	6,565

総合内科（内分泌・代謝）	557	5,843
呼吸器内科	456	5,881
血液内科	897	8,085
膠原病・リウマチ内科	324	7,704
脳神経内科	479	10,568
腎臓内科	242	2,658
内科（その他）	411	4,317

4）代謝、内分泌、血液、膠原病（リウマチ）、神経領域の入院患者は他の施設よりも豊富であり、老年病、感染症および腎臓内科については透析施設を備えた連携施設で十分経験可能です

5）13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しており、13 分野すべてをカバーしております（P.21「岡山市民病院内科専門研修施設群」参照）.

6）1 学年 9 名までの専門医であれば、専門医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.

8）専門医 3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 2 施設、地域基幹病院 2 施設および地域医療密着型病院 17 施設、病院として計 21 施設あり、専門医のさまざま希望・将来像に対応可能です.

9）専門医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、120 症例以上の診療経験は達成可能です.

3.専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます.
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2）専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4.専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P.96 別表 1「岡山市立市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を

受け持つかについては多様性があります．そこで、専門研修（専門医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専門医）１年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、40 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．以下、全ての専門医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.

・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します.

・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます.

・態度：専門医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専門医）２年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、80 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.

・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します.

・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.

・態度：専門医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専門医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専門医）３年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.

・専門医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（J-OSLER）による査読を受けます．査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します．但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.

・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます.

・態度：専門医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専門医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指

導医が専門医と面談し、さらなる改善を図ります.

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします. 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します. 登録すべき症例は原則的には当院での症例を推奨しますが、初期研修の症例についても内科学会指導医の直接指導した主たる担当医であった症例であれば 60 症例（病歴要約症例 14 症例）までは登録可能です.

岡山市立市民病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します. 一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専門医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます.

2）臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます. 内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥）参照）. この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します. 代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します. また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します. これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

① 内科専門医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します. 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます. また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます.

③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます.

④ 救命救急センターの内科外来（平日の内科初診受付時間外）で内科領域の救急診療の経験を積みます.

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます.

⑥ 必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します.

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応、2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専門医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します. なお、開催は web 開催も含みます。

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2024 年度実績 12 回）

※ 内科専門医は年に 2 回以上受講します.

③ CPC（基幹施設 2024 年度実績 2 回）

④ 地域参加型のカンファレンス（岡山市立市民病院病診連携研修会（3S 会、3 回）、岡山市立市民病院救急症例検討会（4 回）

⑤ JMECC 受講（岡山市立市民病院開催 1 回）

※ 内科専門医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します.

⑥ 内科系学術集会（下記「7．学術活動に関する研修計画」参照）

⑦ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

⑧ TNT 研修会および緩和ケア研修会（できるかぎり受講）

など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します.

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します.

- 専門医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
- 専門医による逆評価を入力して記録します.
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（J-OSLER）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.
- 専門医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
- 専門医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

岡山市立市民病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した（P.21「岡山市立市民病院内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である岡山市立市民病院卒後臨床教育研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専門医に周知し、出席を促します.

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専門医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

岡山市立市民病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）.
③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）.
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて、

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
② 後輩専門医の指導を行う.
③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う.

を通じて、内科専門医としての教育活動を行います.

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

岡山市立市民病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.
② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います.
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.
④ 内科学に通じる基礎研究を行います.

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.

内科専門医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.

なお、専門医が社会人大学院などを希望する場合でも、岡山大学総合内科と連携して臨床研修を継続しながら学外大学院での研究も可能であり、この場合の費用は岡山市立市民病院から支払われます.

岡山市立市民病院内科専門研修プログラムでは、学位取得を目的とした臨床研究者としての研鑽と内科専門医としての診療研修を両立できるようサポートしており、医学博士の学位取得と専門医研修の修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です．これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です．その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です．

岡山市立市民病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩）について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である岡山市立市民病院卒後臨床教育研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専門医に周知し、出席を促します．

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します．

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます．

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．岡山市立市民病院内科専門研修施設群研修施設は岡山県岡山市および岡山県全域の医療圏の医療機関から構成されています．

岡山市立市民病院は、岡山県岡山市西部を中心とした医療圏の重要な急性期病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です．一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設、特別連携施設には、内科専門医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、連携施設として高次機能・専門病院である岡山大学附属病院及び倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院、岡山赤十字病院、岡山ろうさい病院、総合病院岡山協立病院、地域基幹病院である重井医学研究所附属病院、倉敷市立市民病院、県外の連携施設として広島市立広島市民病院、姫路赤十字病院、香川県立中央病院、三豊総合病院、中国中央病院、福山市民病院、高知医療センター、大垣市民病院、愛媛県立中央病院、岩国医療センター、住友別子病院、特別連携施設は岡山県内の中小自治体病院と医師少数区域の病院を主体に形成としており、地域医療密着型病院である社会医療法人光生病院、岡山市立せのお病院、美作市立大原病院、岡山市久米南町組合立国民健康

保険福渡病院、地方独立行政法人玉野医療センターたまの病院、井原市立井原市民病院、矢掛町国民健康保険病院、高梁市国民健康保険成羽病院、真庭市国民健康保険湯原温泉病院、医療法人東浩会石川病院、岡山赤十字玉野病院、笠岡市立市民病院、医療法人清梁会高梁中央病院、医療法人井口会総合病院落合病院、赤磐医師会病院、医療法人和陽会まび記念病院、社会医療法人緑壮会金田病院、特定医療法人和風会中島病院、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院、一般財団法人倉敷成人病センターで構成しています.

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます. 地域基幹病院では、岡山市立市民病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します. また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

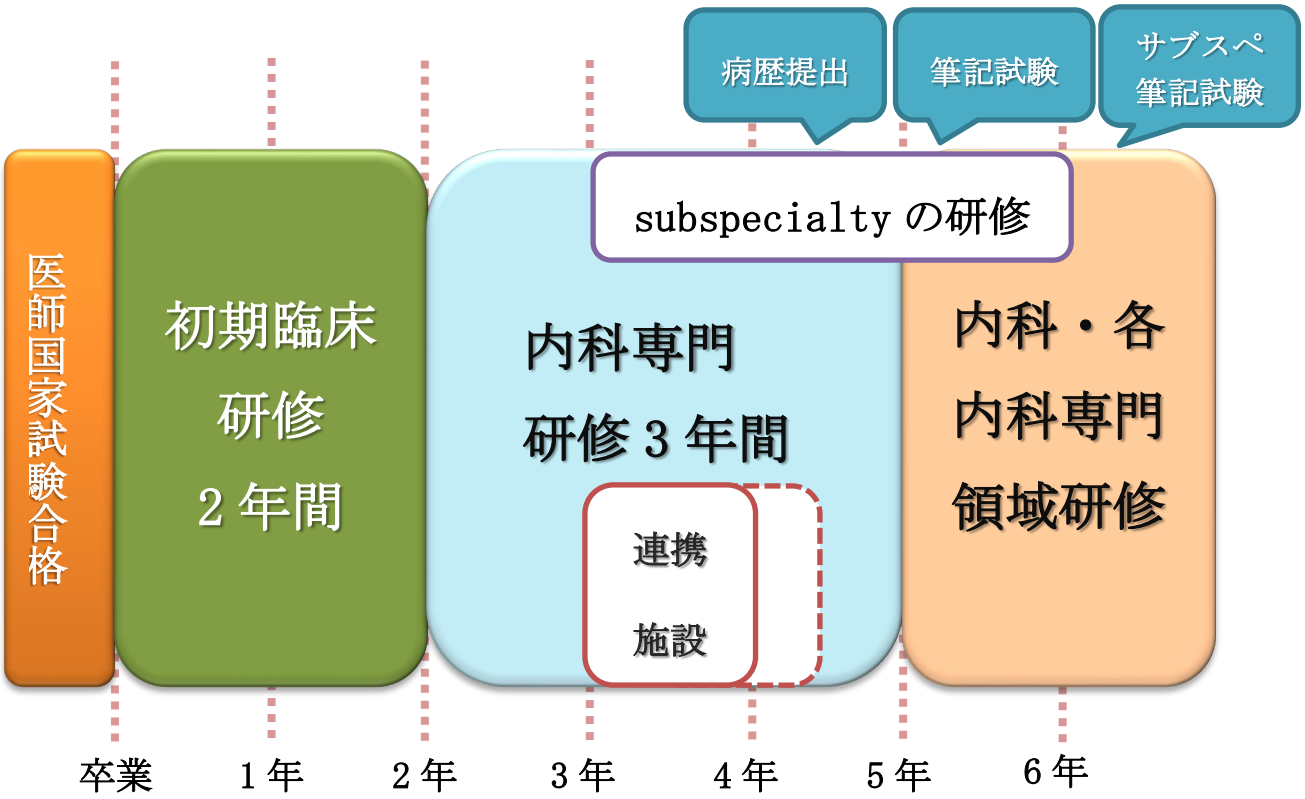
岡山市立市民病院内科専門研修施設群(P.21 参照)は、岡山県内を医療圏とする医療機関から構成しています. 最も距離が離れている美作市立大原病院は岡山県最北東部にあり、岡山市立市民病院から電車を利用して、1 時間 30 分程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです. 特別連携施設である各地域医療密着型病院での研修は、岡山市立市民病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行います. 岡山市立市民病院の担当指導医が、各地域医療密着型病院の上級医とともに、専門医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます.

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

岡山市立市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

岡山市立市民病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

11. 内科専門医研修（モデル）【整備基準 16】



（図 1）　岡山市立市民病院内科専門医研修プログラム（概念図）

基幹施設である岡山市立市民病院内科で、専門研修（専門医）1 年目と 3 年目に専門研修を行います.

専門医 2 年目の秋に専門医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専門医）3 年目の研修施設を調整し決定します. 病歴提出を終える専門研修（専門医）3 年目の 6 ヶ月間、連携施設、特別連携施設で研修し、残りの 6 ヶ月間は基幹施設である岡山市立市民病院内科での専門研修となります。標準的なコースでは、3 年目は、研修の達成度によって希望の subspecialty の研修も可能となります（図 1）. 必須症例数の達成度および希望によっては、2 年目以降の研修中にも subspecialty の研修を組み込むことも可能としています.

12. 専門医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22】

(1) 岡山市立市民病院卒後臨床教育研修センターの役割

・岡山市立市民病院内科専門研修管理委員会が事務局を行います.

・岡山市立市民病院内科専門研修プログラム開始時に、各専門医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.

・ 3 か月ごとに日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて専門医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専門医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への記入を促します．また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専門医による病歴要約の作成を促します．また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します．

・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専門医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専門医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します．

・卒後臨床教育研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行います．担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します．評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で、卒後臨床教育研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います．

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します．

(2) 専門医と担当指導医の役割

・専門医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が岡山市立市民病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます．

・専門医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います．

・専門医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、40 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、80 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します．

・ 担当指導医は専門医と十分なコミュニケーションを取り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）での専門医による症例登録の評価や卒後臨床教育研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専門医は Subspecialty の上級医と面談し、専門医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は、専門医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します．

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います．

・専門医は、専門研修（専門医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．担当指導医は専門医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります．専門医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専門医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます．

（3）評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに岡山市立市民病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します．

（4）修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下ｉ)～vi)の修了を確認します．

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P.90 別表 1「岡山市立市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv）JMECC 受講

v）プログラムで定める講習会受講（TNT 研修会および緩和ケア研修会）

vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専門医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2）岡山市立市民内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専門医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に岡山市立市民病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います．

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専門医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．なお、「岡山市立市民病院内科専門医研修マニュアル」【整備基準 44】と「岡山市立市民病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します．

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】

（P.94「岡山市立市民病院内科専門研修管理員会」参照）

1）岡山市立市民病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会（専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます．また、オブザーバーとして専門医を委員会会議の一部に参加させます（P.94「岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）．岡山市立市民病院内科専門研修管理委員会の事務局を、岡山市立市民病院卒後臨床教育研修センターにおきます．

ii）岡山市立市民病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専門医に関する情報を定期的に共有するために、年に 2 回開催する岡山市立市民病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します．

基幹施設、連携施設ともに、毎年岡山市立市民病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度の診療実績

a） 病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e)1 か月あたり内科入院患者数、f)剖検数

② 専門研修指導医数および専門医数

a)前年度の専門医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専門医数、d)次年度の専門医受け入れ可能人数．

③ 前年度の学術活動

a） 学会発表、b)論文発表

④ 施設状況

a） 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催（当面は連携施設との共同開催）．

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（J-OSLER）を活用します．

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．

15. 専門医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

専門研修（専門医）1 年目と 3 年目は基幹施設である岡山市立市民病院の就業環境に、専門研修（専門医）2 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業します（P.21「岡山市立市民病院内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設である岡山市立市民病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
- 後期研修医として労務環境が保障されています.
- メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります. また、心療内科医師の介入を含めたメンター制度を導入します。
- ハラスメント委員会が整備されています.
- 女性専門医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています.
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.21「岡山市立市民病院内科専門施設群」を参照. また、総括的評価を行う際、専門医および指導医は専門医指導施設に対する評価も行い、その内容は岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専門医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います. 逆評価は年に複数回行います. また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います. その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します. また集計結果に基づき、岡山市立市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専門医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、専門医の逆評価、専門医の研修状況を把握します. 把握した事項については、岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専門医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・担当指導医、施設の内科研修委員会、岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専門医の研修状況を定期的にモニターし、岡山市立市民病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して岡山市立市民病院内科専門研修プログラムを評価します.

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専門医の研修にどの程度関与しているかをモニターし、自律的な改善に役立てます．状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます.

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

岡山市立市民病院卒後臨床教育研修センターと岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は、岡山市立市民病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に、必要に応じて岡山市立市民病院内科専門研修プログラムの改良を行います.

岡山市立市民病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17. 専門医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、website での公表や説明会などを行い、内科専門医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は、岡山市立市民病院卒後臨床教育研修センターの website の岡山市立市民病院医師募集要項（岡山市立市民病院内科専門研修プログラム：内科専門医）に従って応募します．書類選考および面接を行い、岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します.

(問い合わせ先)

岡山市立総合医療センター法人本部人事課

卒後臨床研修担当　的場　賢治　（問い合わせ）

E-mail: kenshu_center@okayama-gmc.or.jp

総務課　診療部担当事務（資料請求）

E-mail: shimin_ikyoku@okayama-gmc.or.jp

HP: https://okayama-gmc.or.jp/recruit/list/resident/senior-resident

岡山市立市民病院内科専門研修プログラムを開始した専門医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います.

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備

基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて岡山市立市民病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します．これに基づき、岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専門医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから岡山市立市民病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から岡山市立市民病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専門医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに岡山市立市民病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

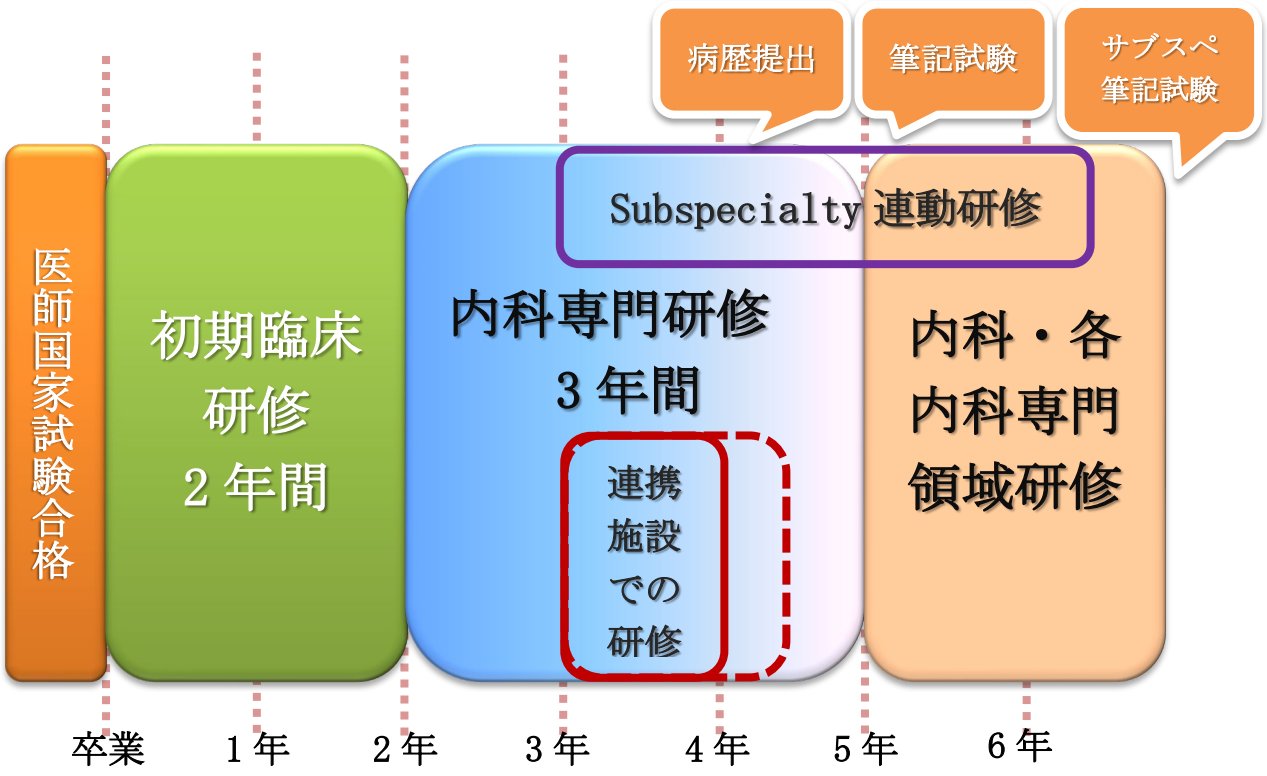
疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します．留学期間は、原則として研修期間として認めません．

留学やプログラム施設群外の病院での勤務によりプログラムを中断した場合であっても再開後、施設群での研修期間が通算して 3 年以上あり、基幹施設・連携施設での研修期間もそれぞれ 1 年以上確保されていればプログラムの修了を認めます．

岡山市立市民病院内科専門研修施設群

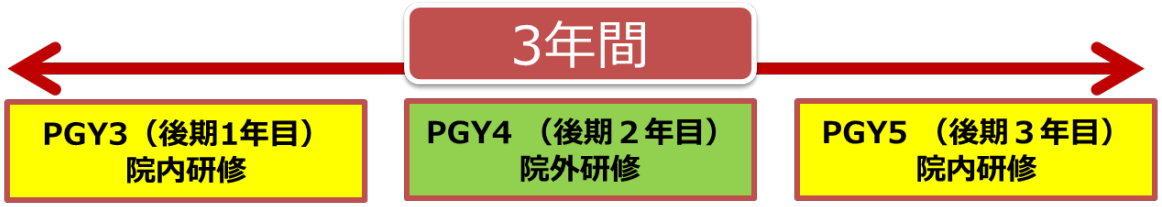
研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）

図 1.　岡山市立市民病院内科専門医研修プログラム（概念図）



（図 1）　岡山市立市民病院内科専門医研修プログラム（概念図）

図 2-1.　岡山市立市民病院内科専門医研修プログラム；標準研修コース（具体例）

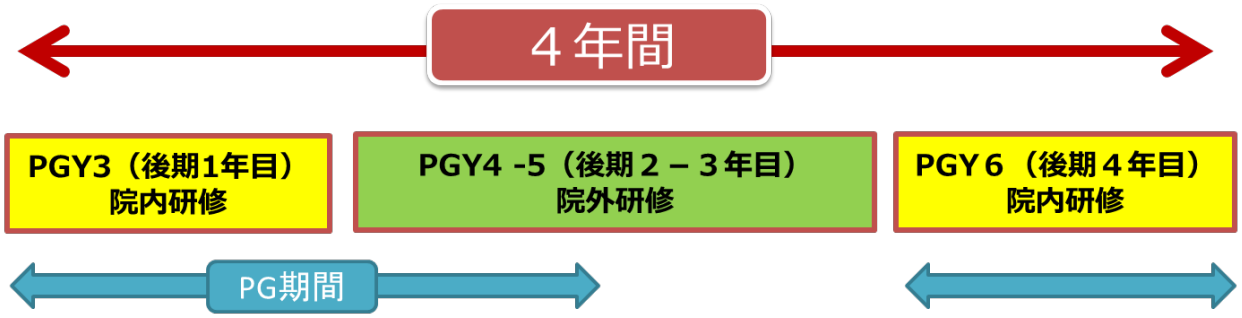


後期1年目 → 院内研修：
・当院は**9つの内科専門科が揃った稀有な施設**。
・それまでの内科系の研修状況によって、
ストレート研修から各科ローテーションまで自由に選択でき、幅広い内科研修が可能。

後期2年目 → 「院外」研修：
・12カ月の院外研修。通年で行う。
・4カ月単位で選択。1施設最大8カ月。
・**最低8カ月の非シーリングもしくは二次医療圏**とすること。そのうち**最低4カ月は岡山の二次医療圏**での研修をすること。

後期３年目 → 院内研修：
・自由選択。

図 2-2.　岡山市立市民病院内科専門医研修プログラム；地域枠コース
（具体例：地域枠医師で義務年限をクリアしつつ専攻する場合）

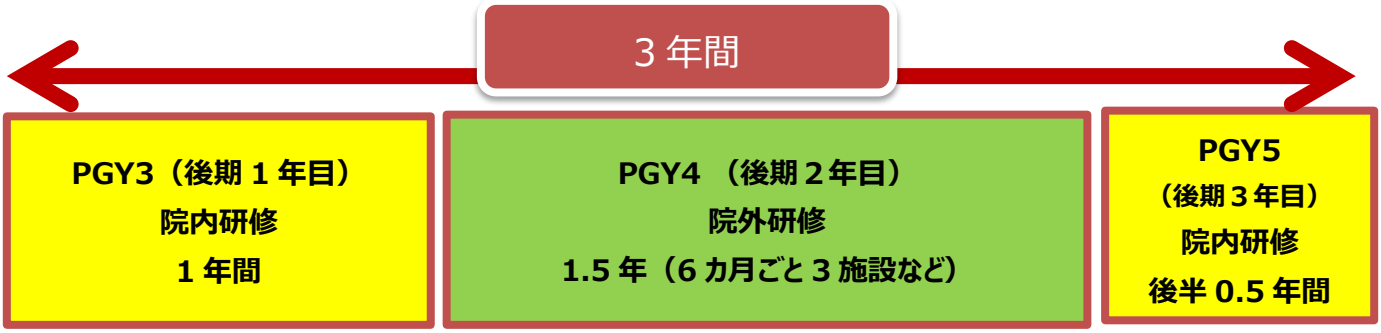


後期1年目 → 院内研修：
・当院は**9つの内科専門科が揃った稀有な施設**。
・それまでの内科系の研修状況によって、
ストレート研修から各科ローテーションまで自由に選択でき、幅広い内科研修が可能。

後期2-3年目 → 「院外」研修：
・2年間の**連携施設である地域枠病院**（県が毎年認定）で院外研修。

後期３年目 → 院内研修：
・自由選択。

図 2-3.　岡山市立市民病院内科専門医研修プログラム；連携プログラムコース（具体例）



岡山県以外の非シーリング県の施設での 1.5 年間の研修が必須。
・基幹施設が多く、専門性を高める研修が可能。

後期 1 年目　→　院内研修：
・当院は 9 つの内科専門科がある稀有な施設である。
・それまでの内科系の研修状況によって、ストレート研修から各科ローテーションまで自由に選択でき、幅広い内科研修が可能。

。
後期 2 年目～3 年目前半（1.5 年）　→　「院外」研修：
・18 カ月（1.5 年）の院外研修。
・6 カ月単位で選択。1 施設最大 12 カ月。

後期 3 年目後半　→　院内研修：
・自由選択。

表 1.　岡山市立市民病院内科専門研修施設群研修施設

	連携施設区分	病院名	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
1	基幹施設	岡山市立市民病院	400	200	12	27	23	10
2	連携施設	岡山大学病院	819	213	9	71	75	5
3	連携施設	大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	1172	445	10	76	52	8
4	連携施設	重井医学研究所附属病院	198	150	10	9	7	0
5	連携施設	倉敷市立市民病院	198	100	4	3	2	0
6	連携施設	広島市立広島市民病院	743	不定	10	44	33	9
7	連携施設	姫路赤十字病院	500	183	10	22	29	7
8	連携施設	香川県立中央病院	533	185	11	27	33	7
9	連携施設	三豊総合病院	416	168	5	15	14	6
10	連携施設	中国中央病院	243	152	7	14	10	4
11	連携施設	福山市民病院	506	184	4	23	23	13
12	連携施設	高知医療センター	620	134	13	15	10	8
13	連携施設	大垣市民病院	817	277	7	20	26	6
14	連携施設	独立行政法人労働者健康安全機構 岡山ろうさい病院	358	145	5	16	8	8
15	連携施設	総合病院岡山協立病院	318	208	6	5	6	5
16	連携施設	愛媛県立中央病院	827	250	9	35	34	13
17	連携施設	岩国医療センター	484	214	9	10	7	6
18	連携施設	岡山赤十字病院	500	200	11	11	21	11
19	連携施設	川崎医科大学附属病院	1138	337	9	59	30	14
20	連携施設	住友別子病院	360	86	8	7	8	0
21	特別連携施設	社会医療法人光生病院	198	100	3	0	0	0
22	特別連携施設	岡山市立せのお病院	60	40	3	0	0	0
23	特別連携施設	美作市立大原病院	80	60	1	0	0	0

24	特別連携施設	岡山市久米南町組合立 国民健康保険福渡病院	52	52	1	1	1	0
25	特別連携施設	地方独立行政法人玉野医療センター たまの病院	190	107	10	5	2	0
26	特別連携施設	井原市立井原市民病院	180	89	2	0	0	0
27	特別連携施設	矢掛町国民健康 保険病院	117	70	1	0	0	0
28	特別連携施設	高梁市国民健康保険 成羽病院	96	60	1	0	1	0
29	特別連携施設	真庭市国民健康保険 湯原温泉病院	105	70	2	0	0	0
30	特別連携施設	医療法人東浩会 石川病院	68	68	6	3	0	0
31	特別連携施設	岡山赤十字玉野病院	83	83	1	2	0	0
32	特別連携施設	笠岡市立市民病院	99	70	4	1	0	0
33	特別連携施設	医療法人清梁会 高梁中央病院	160	75	11	4	4	0
34	特別連携施設	医療法人社団井口会 総合病院落合病院	135	123	6	4	0	0
35	特別連携施設	赤磐医師会病院	245	245	3	5	1	0
36	特別連携施設	医療法人和陽会 まび記念病院	80	60	8	1	1	0
37	特別連携施設	社会医療法人緑壮会 金田病院	120	60	8	4	4	0
38	特別連携施設	医療法人社団和風会 中島病院	110	110	9	1	0	0
39	特別連携施設	社会医療法人祥和会脳 神経センター大田記念 病院	199	79	3	5	5	2
40	特別連携施設	社会医療法人 石川記念会 HITO 病院	228	50	7	5	7	1
41	特別連携施設	一般財団法人 倉敷成人病センター	269	32	2	12	9	1

表 2.　各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

	病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
1	岡山市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	岡山大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	重井医学研究所附属病院	○	○	○	○	○	○	○	×	△	○	△	○	○
5	倉敷市立市民病院	○	○	△	△	△	△	○	△	△	○	△	○	○
6	広島市立広島市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	姫路赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
8	香川県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	三豊総合病院	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○	○
10	中国中央病院	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△
11	福山市民病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	高知医療センター	○	○	○	△	△	△	○	○	△	○	△	○	○
13	大垣市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
14	独立行政法人労働者健康安全機構 岡山ろうさい病院	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	○	○
15	総合病院岡山協立病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
16	愛媛県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	岩国医療センター	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	○
18	岡山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	川崎医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	住友別子病院	○	○	○	△	△	○	△	○	△	○	△	△	○
21	社会医療法人光生病院	○	○	△	△	○	△	○	×	△	△	△	○	○
22	岡山市立せのお病院	○	△	○	△	△	×	○	△	×	○	△	△	△
23	美作市立大原病院	○	△	△	×	△	×	△	×	△	△	×	○	○
24	岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○	○

25	地方独立行政法人玉野医療センター たまの病院	○	△	△	△	○	△	○	△	×	○	△	○	○
26	井原市立井原市民病院	○	△	△	△	△	△	○	×	×	△	△	○	○
27	矢掛国民健康保険病院	○	△	△	×	△	×	△	×	×	○	×	△	△
28	高梁市国民健康保険 成羽病院	○	△	△	×	△	×	○	×	×	△	×	△	○
29	真庭市国民健康保険 湯原温泉病院	○	△	△	×	△	×	△	×	△	△	×	△	△
30	石川病院	○	○	△	×	○	△	△	×	×	△	×	△	△
31	岡山赤十字玉野病院	○	△	△	×	△	×	△	○	△	△	×	△	△
32	笠岡市立市民病院	○	○	○	△	△	△	○	×	△	○	△	○	○
33	高梁中央病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	△	○
34	総合病院落合病院	○	○	○	△	○	○	△	×	×	△	△	○	○
35	赤磐医師会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
36	医療法人和陽会 まび記念病院	○	×	×	△	△	△	×	×	×	○	○	×	△
37	社会医療法人緑壮会 金田病院	○	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△	△	○
38	医療法人社団和風会 中島病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	△
39	社会医療法人祥和会脳神経センター 大田記念病院	○	△	○	○	△	○	△	△	○	×	○	○	○
40	社会医療法人石川記念会 HITO 病院	○	○	○	○	○	×	×	×	○	△	×	○	○
41	一般財団法人 倉敷成人病センター	○	○	△	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．岡山市立市民病院内科専門研修施設群研修施設（P.21 表 1）は岡山県内および近隣県の医療機関から構成されています．

岡山市立市民病院は、岡山県岡山市西部を中心とした医療圏の重要な急性期病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）です．そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設、特別連携施設には、内科専門医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、連携施設として高次機能・専門病院である岡山大学附属病院及び倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院、岡山赤十字病院、岡山ろうさい病院、総合病院岡山協立病院、地域基幹病院である重井医学研究所附属病院、倉敷市立市民病院、県外の連携施設として広島市立広島市民病院、姫路赤十字病院、香川県立中央病院、三豊総合病院、中国中央病院、福山市民病院、高知医療センター、大垣市民病院、愛媛県立中央病院、岩国医療センター、住友別子病院、特別連携施設は岡山県内の中小自治体病院と医師少数区域の病院を主体に形成としており、地域医療密着型病院である社会医療法人光生病院、岡山市立せのお病院、美作市立大原病院、岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院、地方独立行政法人玉野医療センターたまの病院、井原市立井原市民病院、矢掛町国民健康保険病院、高梁市国民健康保険成羽病院、真庭市国民健康保険湯原温泉病院、医療法人東浩会石川病院、岡山赤十字病院玉野分院、笠岡市立市民病院、医療法人清梁会高梁中央病院、医療法人井口会総合病院落合病院、赤磐医師会病院、医療法人和陽会まび記念病院、社会医療法人緑壮会金田病院、特定医療法人和風会中島病院、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院、一般財団法人倉敷成人病センターで構成しています．

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．

地域基幹病院では、岡山市立市民病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また、臨床研究や症例報告などの学術

活動の素養を積み重ねます.

　地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

・専門医 2 年目の秋に専門医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します.
・病歴提出を終える専門医 3 年目の 1 年間、連携施設・特別連携施設で研修をします（図 1）. なお、必須症例の研修達成度および希望によっては 1 年目からの Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）.

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

岡山市立市民病院内科専門研修施設群研修施設（P.21 表 1）は、岡山県内を医療圏とする医療機関から構成しています. 最も距離が離れている美作市立大原病院は岡山県最北東部にあり、岡山市立市民病院から電車を利用して、1 時間 30 分程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

1)専門研修基幹施設

岡山市立総合医療センター　岡山市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･後期研修医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専門医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 27 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（内科主任部長、総合内科専門医および指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床教育研修センターを設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（web 開催含む）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（岡山市立市民病院病診連携研修会（3S 会、3 回）を定期的に開催し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専門医に JMECC 受講（2024 年度当院開催 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床教育研修センターが対応します. ･特別連携施設群（光生病院、岡山市立せのお病院、美作市立大原病院、岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院、地方独立行政法人玉野医療センターたまの病院、井原市立井原市民病院、矢掛町国民健康保険病院、高梁市国民健康保険成羽病院、備前市国民健康保険市立吉永病院、真庭市国民健康保険湯原温泉病院、医療法人東浩会石川病院、総合病院岡山赤十字病院玉野分院、笠岡市立市民病院、医療法人清梁会高梁中央病院、医療法人井口会総合病院落合病院、赤磐医師会病院、医療法人和陽会まび記念病院、社会医療法人緑壮会金田病院、特定医療法人中島病院、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院、倉敷成人病センター）は岡山県内の中小自治体病院を主体に形成されており、特別連携施設の専門研修では、電話（またはインターネット電話）や週 1 回の岡山市立市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、総合内科、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 13 体、2023 年度実績 10 体、2022 年度実績 4 体、2021 年度実績 12 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 10 回）しています. ･治験センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 10

	回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています.
指導責任者	洲脇　俊充 【内科専門医へのメッセージ】 　岡山県岡山市西部を中心とした医療圏の重要な急性期病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）であり、岡山県南東部に加え岡山県内の医療圏全域にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,337 人（1 ヶ月平均）　入院患者 493.8 人（1 ヶ月平均延数）（新規入院患者 479.8 人（1 ヶ月平均））（2024 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本リウマチ学会専門医制度教育施設･新リウマチ専門研修認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（内科） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器外科学会認定専門医制度指定修練施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本癌治療学会がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 2 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本神経学会認定専門医制度准教育施設 日本内分泌学会専門医制度認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本病院総合診療医学会教育施設

	日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定　など

2)専門研修連携施設

1. 岡山大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·岡山大学病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·休憩室、更衣室、仮眠室、当直室等が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべて（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および 救急の分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会、同地方会、その他国内外の内科系学会で多数の学会発表をしています.
指導責任者	指導責任者：和田　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 　岡山大学病院の基本理念は「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てます。」です。本院は高度先進医療の推進、遺伝子細胞治療などの先端的治療の開発において、全国でもっとも進んだ施設であるとともに、中国四国地方中心に約 250 の関連病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動も行っています。当院の内科研修では、ジェネラルからエキスパートまで質の高い内科医を育成します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、リサーチマインドを持って医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 71 名 日本内科学会専門医 68 名 日本消化器内視鏡学会専門医 18 名 日本消化器内視鏡学会指導医 8 名 日本内科学会総合内科専門医 63 名 日本循環器学会循環器専門医 15 名 日本内分泌学会専門医・指導医 11 名 日本腎臓学会専門医・指導医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 13 名 日本血液学会血液専門医・指導医 9 名 日本神経学会神経内科専門医・指導医 8 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名

	日本リウマチ学会専門医 13 名 日本糖尿病学会専門医 16 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 43,688.8 名（1 ヶ月平均延数）2025 年 4 月～2026 年 3 月 入院患者 19,943.1 名（1 ヶ月平均延数）2025 年 4 月～2026 年 3 月
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会内科専門研修基幹病院 日本リウマチ学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構がん治療認定医制度認定研修施設 日本高血圧学会認定高血圧症専門医制度認定施設 日本脳卒中学会脳卒中専門医制度認定研修教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本肥満学会専門医制度認定肥満症専門病院 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育病院 日本病院総合診療医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

2. 大原記念倉敷中央医療機構　倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ･ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー

	室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 77 名在籍しています（専攻医マニュアルに明記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 演題）をしています. 又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2023 年度実績 240 演題)
指導責任者	石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です. 内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 76 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、 日本老年医学会専門医 3 名、 臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか

外来・入院患者数（内科全体の）	外来患者延べ数 270,734 人/年（2023 年度実績） 入院患者数 13,126 人/年（2023 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

3. 重井医学研究所附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専門医の環境	常勤医師として労務環境が保障され、入職時より有給休暇が 10 日間付与されます。宿直翌日の午後は、休みを認めており実際に取得できる環境です。当院では、女性医師や子育て世代の医師も多数活躍しており、家庭と仕事の両立が可能です。敷地内に院内保育所を設けており一時保育の受入もあります。 ハラスメントに関する規定を制定、相談窓口を設置しており、担当者を院内に掲示しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	臨床研修における地域医療研修施設であり、毎年 10 名前後の初期研修医の地域医療研修を受け入れています。毎月研修医と専攻医のためのカンファレンスを行っています。専攻医の研修プログラムは指導責任医師、担当医師、事務担当者で専攻医ひとりひとりに合わせた研修を計画します。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を e ラーニングで定期的に配信し，受講を義務付け，受講のための時間的余裕を与えます。地域参加型のカンファレンスは基幹病院および都窪医師会が定期的に開催しており，受講のための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，血液内科以外の分野では定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心です。 血液浄化療法では県内最多数の患者の診療を行っており、血液透析、在宅血液透析、腹膜透析、オーバーナイト透析など複数の腎代替療法について経験できます。またダイアライシスアクセスセンターがあり、透析アクセスに関連する問題を総合的に扱っており、末梢血管について学ぶことが出来ます。 消化器系疾患の診療は、内視鏡検査や内視鏡治療、周術期管理、終末期患者の緩和ケアなどを行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	研修に必要な病院図書室とインターネット環境があります。学術出張として学会参加を認めています。参加後には報告の場を設け、診療部内全員で知識の共有を行っています。
指導責任者	山本　直樹 【指導担当医より内科専攻医へのメッセージ】 当院は、診療所・高度急性期病院と連携する地域密着型病院です。専門性の高い診療を目指す一方で，地域包括ケア病棟や併設の訪問看護ステーションを通して「地域包括ケアシステム」の中心的役割を目指し，患者さんが住み慣れた地域で検査や治療が行えるよう診療を進めています。その中で，高度急性期病院からの転院を含めた入院診療や一般外来の診療を通して，多様な病状に対する診断や治療を行い，幅広い分野に対応できるよう経験を積んで頂きます。また，急性期診療を終えた患者さんが当院のような後方支援病院に転院となった後に，実際に退院に向けて行われているチーム診療を経験し，患者一人一人に合わせた退院までのプロセスを考えるトータルマネジメントの考え方や地域医療の担う役割を学んで頂きます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　9 名， （日本内科学会総合内科専門医 7 名，認定内科医 2 名） 日本腎臓学会専門医　4 名 日本肝臓学会専門医　2 名 日本消化器病学会専門医　4 名 日本消化器病学会指導医　4 名 日本消化器内視鏡学会専門医　1 名 日本消化器内視鏡学会指導医　3 名 日本糖尿病学会専門医　2 名 日本老年医学会専門医　1 名 日本呼吸器学専門医　1 名 日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡専門医　1 名 日本循環器学会循環器専門医　1 名 日本リウマチ学会専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者（1 日平均）　297.29 名 入院患者（1 日平均）　177.8 名　（2025 年度）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、一般患者・高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます.
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，一般病棟，地域包括ケア病棟，障害者等施設病床で，領域にとらわれず，総合的に幅広く経験して頂けます。 ・透析医療について幅広い知識 ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能など

	の評価）を通して，長期的に全身を管理する視点 ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について．患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方 ・急性期病院から転院してきた癌の終末期患者を最期の時間まで診ることで，ご本人と家族に少しでも穏やかな時間を提供することの意義 ・褥瘡についてのチームアプローチ など、急性期診療以外の部分の医療、全人的医療を学んで頂けます。 入院診療については，当院で対応できる一般急性患者及び急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療の中で，多職種で連携して病態のコントロール，心身ともに全身のサポート，今後の療養方針・療養の場の決定などを行い，その実現に向けて，地域と連携して調整を行っていきます。 在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療と訪問診療、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）などを調整していくことで，医療・介護の連携を図っていきます。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については，当院で対応できる一般急性患者及び急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療の中で，多職種で連携して病態のコントロール，心身ともに全身のサポート，今後の療養方針・療養の場の決定などを行い，その実現に向けて，地域と連携して調整を行っていきます。 在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診医師との連携や，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）などを調整していくことで，医療・介護の連携を図っていきます。
学会認定施設 （内科系）	臨床研修指定病院（協力型） 日本内科学会認定教育連携施設 日本腎臓財団透析療法従事職員研修実習指定施設 日本透析医学会認定施設 日本腎臓学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本老年医学会認定老年病専門医制度認定施設 日本循環器学会関連施設

4．倉敷市立市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境（個別）があります. ・倉敷市立市民病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります. ・ハラスメント委員会が病院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています

認定基準 2) 専門研修プログ ラムの環境	・指導医が２名在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります. 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器および救急の 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	江田良輔 【内科専攻医へのメッセージ】　倉敷市立市民病院は岡山県の南西部にある倉敷市立の唯一の自治体病院で、四国との玄関口に位置し、風光明媚で温暖気候、岡山市との交通の便もとてもいい環境にあります。一般病棟 198 床を有し、地域密着型の地域の医療・保健・福祉を包括的に担っています. 岡山市立市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として 内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医２名、日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本呼吸器学会専門医 1 名
外来・入院 患者数外来患者	外来４１４名（1 日平均）　　入院患者１２３名（1 日平均） （令和 7 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・ 技能 技術・技能	評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携も経 験できます. 市の行政、保健所活動も経験でき、地域包括ケアを推進する地域基幹病院としての役割を担っています。
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育研修施設 NST 稼働認定施設

5. 広島市立広島市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・広島市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員保健室）があります. ・ハラスメント対応窓口が広島市立病院機構に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育室があり，利用可能です. ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
認定基準 【整備基準 24】	・指導医が 44 名在籍しています（下記）. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・プログラム管理者（内科主任

2)専門研修プログラムの環境	部長，総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ･医療倫理講習会（年 2 回）・医療安全講習会（年 6 回）・感染対策講習会（年 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（年 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（医療者がん研修会　年 6 回，マルチケアフォーラム　年 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.（上記） ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2025 年度 9 体、2024 年度 6 体、2023 年度 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研修に必要な図書室，インターネット環境を整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（年 11 回）しています. ･治験コーディネーター業務および事務局業務は治験施設支援機関（SMO）に委託しており，定期的に治験審査委員会を開催（年 11 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 5 演題，2023 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	植松周二 【内科専攻医へのメッセージ】 広島市立広島市民病院は，広島市の中心部に位置し，広島県都市部医療圏の中心的な急性期病院であり，救急医療，がん医療（地域がん診療連携拠点病院），高度医療を担っています．救急診療部，密度の高い救急医療を研修できます．都市部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修をおこない，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境整備をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 44 名，日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器専門医 14 名，日本肝臓学会肝臓専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本内分泌学会専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 7 名，日本リウマチ学会専門医 2 名， 日本アレルギー学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 7 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 11 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名， ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者延数 117,413 名/年　内科系入院患者延数 8,380 名/年　救急外来患者延数 18,138 名/年　（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本血液学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会連携研修施設 など

6. **姫路赤十字病院**

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(Free Wi-Fi)があります。 ・姫路赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 22 名在籍しています。 ・施設内に臨床研修センターと内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、併せて設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度：4 回、2024 年度実績：5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、姫路市救急医療合同カンファレンス、姫路循環器談話会、姫路呼吸器研究会、姫路消化器病研究会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。

	・当プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・研修に必要な内科剖検(2025 年度 7 件、2024 年度 5 件、を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医中誌、PubMed、Clinical Key、Cochrane Library、DynaMed、UpToDate、今日の診療など文献検索、データベース、医療情報に加え、冊子体ジャーナル（和雑誌 108 誌、洋雑誌 81 誌購読）を取り揃えています。 ・UpToDate anywhere を自宅 PC や mobile 機器で、いつでも、どこでも、何時間でも利用できます。（但し、通信費用は自己負担です） ・Clinical Key：1,100 以上の書籍・教科書、600 以上のジャーナル、17,000 以上の医療動画など豊富な医療情報を入手できます。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績：12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に自主研究・受託研究審査会を開催（2024 年度実績：15 回）しています。 ・日本内科学会総会や同地方会で積極的に発表しています（2024 年度実績：3 演題）。 ・Subspecialty 学会に積極的に発表しています（2024 年度実績：38 演題）
指導責任者	プログラム統括責任者　筑木隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路赤十字病院は、兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期総合病院であり、消化器、肝臓、循環器、血液、呼吸器、膠原病、腎臓、糖・代謝・内分泌、消化器内視鏡の専門診療を積極的に展開しています。 本プログラムの連携施設として、上記領域の専門診療並びに内科救急疾患診療を研修することにより、質の高い、幅広い診療領域に通じた、地域に根差した医療を実践できる内科専門医を育成することを目指しています。 姫路赤十字病院では、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までを通じて、確かな診断・治療はもとより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるように、しっかり指導します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　23 名 日本内科学会総合内科専門医　29 名 日本消化器病学会消化器専門医　8 名 日本肝臓学会肝臓専門医　3 名 日本循環器学会循環器専門医　6 名 日本糖尿病学会専門医　2 名 日本腎臓学会腎臓専門医　1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　4 名 日本リウマチ学会専門医　3 名 日本消化器内視鏡学会専門医　8 名
外来・入院患者数	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 外来患者延べ数　87,776 名 新入院患者　6,826 名

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 疾患の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	地域がん診療連携拠点病院（高度型） 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定協力施設 日本ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾅﾙﾗｼﾞｵﾛｼﾞｰ学会(IVR)専門医修練認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定研修関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　　など

7. 香川県立中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，労働基準法を順守し，A 大学の専攻医就業規則及び給与規則に従います．専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けます．プログラム管理委員会では各施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価します
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います． ・指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価，専攻医による逆評価を入力して記録します． ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います． ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します． ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．
認定基準	内科専門医研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については，香川県

【整備基準 24】 3)診療経験の環境	立中央病院（基幹病院）の DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数（H26 年度）を調査し，ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています（10 の疾患群は外来での経験を含めるものとします）．ただし，研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり，初期研修時での症例をもれなく登録すること，外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステム（外来症例割当システム）を構築することで必要な症例経験を積むことができます
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	研究会・学会等の参加。院内雑誌も含む学術論文の投稿。様々な院会カンファレンスへの参加
指導責任者	総括責任者：宮脇裕史 副総括責任者：土井正行 総合診療科：高口浩一 消化器内科：稲葉知己 肝臓内科：永野拓也 呼吸器内科：宮脇裕史 糖尿病内科：吉田淳 血液内科：脇正人 腎臓内科：綿谷博雪 膠原病内科：平石宗之 循環器内科：岡田知明 神経内科：森本展年 看護部：2 名 薬剤部：１名 検査部：1 名 放射線部門：1 名 診療情報管理：1 名 電子カルテシステム：1 名 総務課：中條裕太
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器病専門医 22 名、日本肝臓学会専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 12 名、日本内分泌学会専門医 0 名 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	延べ入院患者数　133,997（令和 7 年度年間延数） １日平均外来患者数　898（令和 7 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病および類縁疾患，感染症，救急
経験できる技術・技能	内科医として必要な手技はすべて経験できる
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設、日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設、 など

8. 三豊総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（心理臨床科）があります。 ·ハラスメントに対応する委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ·院内保育所があり、利用可能です。 ·職員旅行のコースが 10 カ所程（国内・海外）から自由に選択でき、その他福利厚生が充実しています。 ・ワークライフバランスが充実しています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 15 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。事務は三豊総合病院卒後臨床研修センターが管掌します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に三豊総合病院卒後臨床研修センターが対応します。 ·特別連携施設の専門研修では、電話や月 1 回の三豊総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 5 体、2023 年度実績 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、オンライン文献検索などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、適宜開催しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ·日本内科学会講演会、同地方会、国際学会などへの参加、発表及び、院内雑誌を含む学術論分の投稿を行っています。 その他、定期的な英国人院外講師によるベッドサイドティーチングもあり英語に触れる機会は非常に多いです。毎週火曜日には米国人ネイティブスピーカーによる日常および医学英語の英会話教室も開催されています。（希望者のみ）
指導責任者	神野　秀基 【内科専攻医へのメッセージ】 香川県西部および愛媛県東部地域にまたがる中核的病院であり 1 次から 3 次医療機関として軽症から重症まで様々な疾患の診療を経験できます。専門研修としてはそのような環境の中、圧倒的な症例数と手技を経験できることで責任を

	持って診療する実力が身に付きます。 また基礎的なことを身に付けながら、研修期間中の国際学会発表、英語論文執筆、著名院外講師を招いてのマンツーマン指導などの活動が盛んであり、ここ最近は医学生、研修医が全国各地から見学に訪れてくれています。基礎力の養成+αのアカデミック活動を当院で楽しみながら学びましょう！
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、日本消化器病学会消化器病専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本肝臓病学会肝臓専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 784.3 (258)名 入院患者 346.5(183)名 2024 年度 1 日平均 ( )内は内科
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化管学会（胃腸科指導施設） 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 など

9. 公立学校共済組合　中国中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1 専攻医の環境	初期臨床研修制度　基幹型研修指定病院です 研修に必要な図書室とインターネット環境があります 内科専攻医は常勤医師としての労務環境が保証されています メンタルストレスに適切に対応する部署があります ハラスメント委員会を院内に整備しています 敷地内に院内保育所があり、利用できます 女性専攻医が安心して勤務できるような更衣室や休憩室の配慮を行っています
認定基準 【整備基準 23】 2 専門研修プログラムの環境	**内科指導医が、14 名在籍しています。** **内科専門研修プログラム委員会、内科研修委員会を設置しており、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります** **医療安全講習会・感染対策講習会を定期に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます** **研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます** **CPC を定期に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます** **JMECC の開催を行い、専攻医に受講の機会を確保します** **地域参加型カンファレンスを定期に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます**

認定基準 【整備基準 23/31】 3 診療経験の環境	内科研修手帳疾患群の 70 疾患群の内、56 疾患群について研修できます（研修手帳疾患領域 13 領域のうち 10 領域以上について研修可能です） 専門研修に必要な剖検を行っています 内科サブスペシャリティ 13 分野のうち、7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 23】 4 学術活動の環境	臨床研究が可能な環境を整えています 倫理委員会を設置しています。治験管理室を設置しています 日本内科学会講演会あるいは地方会に年間で年計 3 題以上の学会発表を目指します
指導責任者	広島県東部　福山府中二次医療圏（人口約 52 万人）における地域の中核病院として、長年、内科学会認定教育病院として、認定医、総合内科専門医の育成に力をいれてきました。内科分野の中では、血液、呼吸器、消化器、腎臓、糖尿病、膠原病関連の患者さんが多い病院です。また、中規模病院であるため、専門的な疾患だけではなく、common disease も数多く経験することが可能になります。将来、内科サブスペシャリティ専門医に進むにしても、新しい内科専門医制度の目的である総合内科専門医として活躍できる医師になるための研修をしっかりとしていただきたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名　・　日本内科学会総合内科専門医　8 名 日本消化器学会消化器専門医　2 名 日本血液学会専門医　4 名（指導医 2 名） 日本呼吸器学会専門医　3 名（指導医 2 名） 日本糖尿病学会専門医　1 名（指導医 1 名） 日本腎臓学会専門医　2 名（指導医 2 名） 日本リウマチ学会専門医　2 名（指導医 1 名） 日本アレルギー学会専門医　1 名
外来･入院患者数	内科外来患者　実数　10,421 名 内科入院患者　実数　3,396　総入院患者　実数　5,115 名（ドック除く）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、10 領域の症例を幅広く研修することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科領域に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験できます
経験できる地域医療･診療連携	急性期医療だけではなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病々連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	臨床研修指定病院（基幹型） 日本内科学会認定教育病院 日本血液学会認定血液研修施設・日本輸血・細胞治療学会認定制度指定施設 日本輸血・細胞治療学会 I&A 認定施設 日本呼吸器学会認定施設・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本消化器病学会認定関連施設・日本消化器内視鏡学会認定指導施設・日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設・日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本医療薬学会認定研修施設（認定、がん専門、薬物療法専門） 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設・日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本肺癌学会教育認定施設

10. 福山市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・福山市民病院内科専門研修医として労務環境が保証されています. ・メンタルストレスに適切に対処する組織（臨床研修管理委員会）があります. ・ハラスメントに対する相談窓口を病院総務課に設置し、ハラスメント対策委員会を院内に設置しています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室。シャワー室、当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育施設があり、病児・病後児保育室も利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 23 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のオープンカンファレンス・がん診療連携フォーラムを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・特別連携施設の専門研修では、メールや電話や月 1 回の福山市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、内分泌、代謝（糖）、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2019 年度 10 体、2020 年度 1 体※新型コロナウイルスのため減少、2021 年度 11 体、2022 年度 10 体　2023 年度 12 体、2024 年度 6 体、2025 年度 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています. ・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題以上）をしています．又、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2024 年度実績 24 演題以上) ・日本内科学会　英文紙（Internal Medicine）への論文投稿に取り組んでおります.
指導責任者	植木　亨 【内科専攻医へのメッセージ】 福山市民病院は、福山市を中心に、広島県東部から岡山県南西部（井原・笠

	岡）を医療圏とする急性期基幹病院です．国が指定する、福山・府中二次医療圏の「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており、「がん診療」を中心とした高度の専門的医療を展開する一方、3 次救急を受け入れる「救命救急センター」を併設しており、「地域の救急医療」の中心的な担い手ともなっています． 本プログラムは、地域完結型医療の急性期医療を担当する病院として、協力病院と連携しながら、地域密着型医療研修を通して質の高い内科医を育成することが目標です．地域に根差した病院である当院では、一貫してジェネラルマインドを持ったスペシャリストの養成を目指しています．加えて、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供しながら、医学の進歩に貢献できる医師を育てることを目的とします．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名 日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本消化器内視鏡学会専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本透析医学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 3 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医　5 名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者延べ数 214,214 人/年（2025 年度実績） 入院患者延べ数 148,781 人/年（2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門研修プログラム基幹施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本臨床栄養代謝学会認定 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本不整脈学会心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本感染症学会連携研修施設 日本膵臓学会認定指導施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本胆道学会指導施設

	日本血液学会認定専門研修認定施設 日本リウマチ学会教育施設 など日本胆道学会指導施設 日本膵臓学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会認定関連施設 日本血液学会認定専門研修認定施設　など

11. 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（リエゾンナース、臨床研修管理センター）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 15 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催（2025 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 1 回　医療倫理 1 回　※すべて e-learning にて実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域のうち 8 分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会又は同地方会、その他内科系学会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 22 演題）をしています.
指導責任者	岡本　宣人 【内科専攻医へのメッセージ】 高知医療センターは、６つの診療機能（がんセンター、循環器病センター、地域医療センター、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、こころのサポートセンター）を有しており、高知県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に大学病院などの内科系診療科が連携して、質の高い内科医を育成するものです。また、単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位のサービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医 1 名　（2026.4 時点）
外来・入院患者数	外来患者 15,675 名（1 ヶ月平均）入院患者 12,587 名（1 ヶ月平均）（2025 年度） 外来患者 16,254 名（1 ヶ月平均）入院患者 13,108 名（1 ヶ月平均）（2024 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、56 疾

	患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本超音波学会認定超音波専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

12. 大垣市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大垣市民病院正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神神経科医師）があります。 ・ハラスメント委員会が設置されており病院内に担当者（庶務課長）が常駐しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院連携カンファレンス　2025 年度実績 4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群の全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 4 体、2024 年度 8 体、2025 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し開催（2025 年度実績 7 回）しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	森島　逸郎 【内科専攻医へのメッセージ】 大垣市民病院は岐阜県西濃地区（対象人口約 38 万人）の中核病院で、救急医療が盛んで一次から三次まで数多くの救急患者を扱っています。また、各疾患の症例数も東海地区では最も多く、内科の専門研修で症例の収集に困ることはありません。一方で、当院の特徴は市中病院でありながらリサーチマインドが盛んであることです。ホームページ（http://www.ogaki-mh.jp）を見ていただければわかりますが英語を含めた多くの論文および全国レベルでの発表をしています。各分野で多くの指導医、専門医もそろっており、内科専門医制度で資格を取得するには最適の病院と自負しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本肝臓学会専門医 4 名、日本消化器学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本感染症学会専門医 0 名、日本臨床腫瘍学会 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 15,077 名（1 ヶ月平均、延べ、時間外を含む）、入院患者 7,731 名（1 ヶ月平均　延べ）　内科分のみ
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設

	日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ＩＣＤ/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

13. 独立行政法人労働者健康安全機構 岡山ろうさい病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·岡山労災病院嘱託医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメントに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 16 名在籍しています（2023 年 3 月現在。下記）. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者 内科部長，プログラム管理者　呼吸器内科部長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（岡南臨床フォーラム，岡山ろうさい病院キャンサーボード，岡南消化器病研究会，臨床に役立つ循環器の会；2023 年度実績 6 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催 1 回、

	参加者 5 名、2022 年度開催 0 回、2021 年度開催 0 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくても 11 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうち少なくても 60 疾患群以上について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 4 体、2022 年度 0 体、2023 年度 8 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 22 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度実績 11 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 6 演題）をしています.
指導責任者	矢野　朋文 【内科専攻医へのメッセージ】 　岡山ろうさい病院は岡山市南区～玉野市を主な医療圏とする地域の中心的な急性期病院です．患者を統合的・継続的な視点から診ることを重要視し，急性期治療ばかりでなく地域密着型施設との連携を十分に学ぶことができます．また，アスベスト関連疾患研究・研修センターが敷地内に併設されているなど、研究体制が充実しており，リサーチマインドの形成には大変適した環境と言えます．このプログラムに則った内科専門研修を経て，幅広い診療能力と問題解決能力をベースに，チーム医療，地域医療のリーダーとして職務を遂行する力を身につけます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 3 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名，心血管インターベンション学会専門医 ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,820 名（1 ヶ月平均）　入院患者 493 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

14. 総合病院　岡山協立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルヘルスに適切に対処する委員会(労働安全衛生委員会)があります。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に連携している保育園があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 5 名在籍しています（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の研修を定期的に開催(2025 年度実績　医療倫理 1 回　医療安全 2 回　感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2025 年度実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2025 年度実績 2 回），専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にＪＭＥＣＣ受講（~~2025 年開催無し~~)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で常時的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度 8 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実施 4 回）しています。
指導責任者	角南　和治 【内科専攻医へのメッセージ】 岡山協立病院では、ＨＣＵを含む急性期一般病棟のみならず、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟床、緩和ケア病棟を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名

	日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 107,164 名/年 入院患者 92,249 名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本静脈経腸学会・ＮＳＴ(栄養サポートチーム)稼動施設 日本感染症学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本病理学会病理専門医研修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 画像診断管理認証施設 ~~椎間板酵素注入療法実施可能施設~~

15. 愛媛県立中央病院

認定基準 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレス(ハラスメント含む)に適切に対処する部署(総務医事課担当)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。

認定基準 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 13 体、2023 年度実績 8 体、2022 年度実績 10 体を行っています。
認定基準 ４）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024年度実績9回）しています。
指導責任者	副院長（消化器内科） 二宮　朋之 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急センターを併設しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医数　13、日本循環器学会循環器専門医数　8、 日本内分泌学会専門医数　2、日本糖尿病学会専門医数　5、日本腎臓病学会専門医数　3、 日本呼吸器学会呼吸器専門医数　7、日本血液学会血液専門医数　8、日本神経学会神経内科専門医数　5、日本アレルギー学会専門医（内科）数　2、日本リウマチ学会専門医数　0、日本肝臓学会専門医　8、臨床腫瘍学会専門医　2、消化器内視鏡学会専門医　13、日本感染症学会専門医数　2、日本老年学会専門医数　3、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 25,754 名（1 ヶ月平均） 入院患者 15,217 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、 日本神経学会専門医制度教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本感染症学会連携研修施設、非血縁者間骨髄採取認定施設、非血縁者間骨髄移植認定施設、 非血縁者間末梢血幹細胞採取（移植）認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本プ

	ライマリ･ケア連合学会認定　総合診療医･家庭医後期研修プログラム認定施設、日本東洋医学会研修施設、ステントグラフト実施認定施設など

16. 岩国医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・国立病院機構医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります. ・監査・コンプライアンス室が国立病院機構本部に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所，病児保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 10 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 11 回）し，専・攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績　地域医療研修センターカンファレンス 4 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 4 演題）をしています.
指導責任者	指導責任者： 藤本　剛 【内科専攻医へのメッセージ】 岩国医療センターは都道府県がん診療連携拠点病院であり，連携施設としてがんの基礎的，専門的医療を研修できます．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. また,がんゲノム連携病院であり,ゲノム医療にも積極的に取り組んでいます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　10 名 日本内科学会総合内科専門医　7 名 日本消化器病学会消化器専門医　4 名

	日本循環器学会循環器専門医　5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名 他
外来・入院患者数	外来患者 125,292 名（令和 7 年度年間延数） 新入院患者 13,544 名（令和 7 年度年間延数）
経験できる疾患群	13 領域のうち，がん専門病院として 5 領域 889 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応したがん患者の診断，治療，緩和ケア，終末期医療などを通じて，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 他

17. 岡山赤十字病院

認定基準 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・岡山赤十字病院シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療安全 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣ を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務 付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 ３）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 ４）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	佐久川　亮 【内科専攻医へのメッセージ】　岡山赤十字病院は、岡山県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に当院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会指導医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、日本炎症性腸疾患学会指導医 1 名、日本炎症性腸疾患学会専門医 1 名、日本胆道学会指導医 2 名、日本膵臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本血液学会血液指導医 2 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本呼吸器学会指導医 3 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名、日本循環器学会認定循環器専門医 4 名、日本内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本ﾘｳﾏﾁ学会指導医 1 名、日本ﾘｳﾏﾁ学会専門医 1 名、日本脳卒中学会指導医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 83, 155 名（令和 7 年度年間延数） 入院患者 6, 467 名（令和 7 年度年間延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈心電図専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

18. 川崎医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書館、自習室、インターネット環境に加え、良医育成支援センターおよびシミュレーションセンター（腹腔鏡、内視鏡、蘇生など）があります。 ･川崎医科大学附属病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。 ･セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会が大学に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室を整備し、さらに産前産後休暇・育児休業、妊娠期間中の当直免除の申請可能、小学校入学までの当直免除申請可能などの女性医師支援に取り組んでいます。 ･敷地内に子育て支援センターがあり、保育所および病児保育が利用可能です。 ･福利厚生面の充実に力を入れ、独身者には病院から 1km のところにアパート（二子レジデンス）があり、希望者はおおむね利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 59 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム研修実務委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・院内感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 5 回，院内感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･レジデントセミナーCPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスとして、cancer seminar，case conference、oncology seminar、岡山県緩和ケア研修会を定期的に開催し、専攻医に受講を奨励し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 9 分野のうち、消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、脳卒中、リウマチ・膠原病のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同中国地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	三原　雅史 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医科大学は中核市である倉敷市内に附属病院、政令指定都市である岡山市内に総合医療センターの 2 つの附属病院を有し、岡山県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学附属病院の内科系 9 診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。院内には約 80 のカンファレンス室が用意されていて、常時有効に利用することが可能です。 同時に、大学の研究室、研究センターなども有機的に利用でき、希望に応じて医学教育への参画や臨床研究の実践に取り組むこともできます。
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本内科学会指導医 59 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名、 日本消化器病学会消化器専門医 19 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 15 名、日本脳卒中学会専門医 12 名 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、

	日本腎臓病学会専門医 11 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 11 名、日本神経学会神経内科専門医 9 名、 日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 6 名　ほか
外来・入院患者数	年間総外来患者数 16,094（全科）、2,418（内科） 年間総入院患者数 205,106（全科）、68,943（内科）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 ステントグラフト実施施設（腹部大動脈瘤）（胸部大動脈瘤） 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本動脈硬化学会専門医教育施設

19. 住友別子病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･住友別子病院常勤医師として労務環境が保障されてい

	ます。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医は 8 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（院長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催する予定で、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2021 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（王子クリニカルカンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（基幹施設または連携施設にて開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2019 年度 4 体、2018 年度実績 3 体、2017 年度 2 体）を行っています。2020 年度からはコロナウイルス感染症に関連して実施していない。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、申請に基づき開催しています。 ･臨床研究支援室を設置し、申請に基づき臨床研究審査委員会および治験審査委員会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表

	（2022 年実績 1 題） しています。
指導責任者	鈴木　誠祐 【内科専攻医へのメッセージ】 住友別子病院は、愛媛県新居浜・西条医療圏の中心的な急性期病院であり、新居浜・西条医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,680 名（年間）　入院患者 8,254 名（年間）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

3) 専門研修特別連携施設

1. 社会医療法人光生病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専門医の環境	･初期医療研修における岡山市立市民病院との関連の地域医療研修関連施設です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・光生病院非常勤医師として労務環境が保証されます。 ・メンタルストレスに対応する常勤の心療内科医がいます。 ・女性専門医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】	･内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専門医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります.

2)専門研修プログラムの環境	·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専門医に受 講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専門医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます. ·基幹施設である岡山市立市民病院で行う CPC（2014 年度実績 5 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専門医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、アレルギー、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 0 演 題）を予定しています.
指導責任者	吉本靜雄 【内科専門医へのメッセージ】 社会医療法人光生病院は岡山市の中心部に位置し、「地域との触れ合いをもとに総合的な医療と福祉を提供し、救急医療から施設、在宅医療までの幅広い医療提供を実践しています。『慈愛と奉仕』の理念のもとに急性期から Post-acute までの医療を提供する社会医療法人光生病院のほかに、医療提供後の介護、福祉を提供するために光生病院グループとして県内外の 10 地区に介護福祉施設を併設して切れ目のない医療、福祉サービスの提供を行っています。救急医療、高齢者呼吸器疾患を主とする救急医療、急性期医療後の Post-acute の医療、医療後の介護施設での医療などについて研修していただきます。さらに、岡山県北部のへき地診療協力病院でもありへき地医療の研修も可能です。内科専門医として、必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」、治す医療だけではなく「支える医療」、「医療と介護の連携」について経験し、2025 年に向けて日本が舵を切った「地域包括ケアシステム」を学ぶ研修になると考えます.
指導医数 （常勤医）	（常勤医） 日本内科学会指導医 0 名、日本病院総合診療学会専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本肝臓病学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（皮膚科）1 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1名、日本血液学会専門医 1名、日本病態栄養学会専門医 1名、日本臨床検査学会専門医 1名ほか
外来・入院患者数	外来患者 4700 名（1ヶ月平均） 入院患者 175 名（1ヶ月平均）
病床	198 床〈急性期病棟 106 床 地域包括ケア病棟 20 床、障害者一般病棟 72 床〉
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者診療を主に急性期から慢性期までの医療を広く経験することとなります. 複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の 療養方針の考え方などについて学ぶことができます.
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能（高齢者感染症治療、人工呼吸器管理、内視鏡検査治療、糖尿病治療、腎透析、リハビリテーション）を、救急医療から介護までを一貫して継続可能な病院という枠組みのなかで、経験していただきます.
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、救急疾患をはじめとする急性期疾患とともに岡山市立市民病院をはじめとする高度医療提供病院から転院してくる急性期後の疾患の治療方針の決定・治療を行い、疾患回復後はその後の療養方針の決定、さらに、療養の場の決定を行うとともに、在宅へ復帰する患者については、連携診療所などと病診連携を行います。
学会認定施設	なし

（内科系）	

2. 岡山市立せのお病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専門医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です. ･研修に必要な医局図書室とインターネット環境があります. ･岡山市立せのお病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります. ･ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が岡山市立せのお病院内に設置されています. ･女性専門医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専門医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 4 回）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･基幹施設である岡山市立市民病院で行う CPC（2014 年度実績 2 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専門医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています. ･地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および岡山市医師会が定期的に開催しており、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題）を予定しています.
指導責任者	森末　真八 【内科専門医へのメッセージ】 　岡山市立せのお病院は岡山県県南東部保健医療圏の岡山市にあり、昭和 22 年の創立以来、地域医療に携わる、急性期病院です．理念は「人を暖かく迎える医療－地域の健康の守り手・高齢者をささえる医療・心を大切にする医療」で、在宅療養支援病院であり、在宅復帰をめざす医療療養病床です．外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実にも努めています. 　医療療養病床としては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます. 在宅医療は、医師 2 名による訪問診療と往診をおこなっています．病棟・外来・併設訪問看護ステーション・併設居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています. 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます.
指導医数	日本消化器病学会消化器専門医 2 名

（常勤医）	
外来・入院患者数	外来患者 1、098 名（1 ヶ月平均）　入院患者 118 名（1 日平均）
病床	60 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます.
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域の内科単科の病院という枠組みのなかで、経験していただきます. 健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ. 急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）．複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について．患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方. 嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み. 褥創につてのチームアプローチ.
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療．残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整. 在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について. 地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群（6 医療機関）の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療．地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携. 地域における産業医・学校医としての役割.
学会認定施設（内科系）	

3．美作市立大原病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専門医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です. ･医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります. ･美作市立大原病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ･ハラスメント事例には随時相談可能な体制があります. ･病院近傍に院内保育施設があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専門医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2015年度実績4回)し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･基幹施設である岡山市立市民病院と連携し、日本内科学会が企画するCPC の受講を専門医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスは基幹病院および美作市および津山市医師会が定期的に開催しており、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器およ

【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 0 演題)を予定しています.
指導責任者	塩路康信 【内科専門医へのメッセージ】 美作市立大原病院は岡山県美作市北部にあり、急性期一般病棟 40 床、療養病棟 40 床の合計 80 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています. 岡山市立市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として 内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本プライマリ・ケア学会指導医 産業医 1 名、日本外科学会認定医 1 名
外来・入院患者数	外来患者延 33500 名(1 ヶ月平均 2700 名) 入院患者延 24753 名(1 ヶ月平均 2000 名)
病床	80床(一般病棟40床、療養病床40床)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例のうち、一般的疾患について幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域の内科単科の病院という枠組みのなかで、実際の症例に基づきながら診療します. 健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ. 急性期をすぎた療養患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価). 複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について. 患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方. 嚥下機能評価(嚥下造影にもとづく)および口腔機能評価(歯科医師によります)による、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み. 褥創につてのチームアプローチ.
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療. 残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整. 在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント(介護)と、医療との連携について. 地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群(6医療機関)の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療. 地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携. 地域における産業医・学校医としての役割.
学会認定施設 （内科系）	施設認定はありません。

4. 岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における臨床研修協力施設です。 ・研修に必要な図書を備えた医局とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・非常勤医師として労働環境が保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、浴室を備えた当直室が整備されています。

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全管理委員会、感染防止対策委員会を毎月開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である岡山済生会総合病院で行う CPC 若しくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは基幹病院及び岡山県医師会、御津医師会等が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、代謝、腎臓、アレルギー、感染症及び救急の分野で、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、一次及び二次救急医療を担い、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	症例は多いですが、学会発表はできていません。さまざまな研修会や勉強会での講義は行っています。今後は、日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	堀内武志 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和 24 年に設立された福渡病院は、岡山県のほぼ中心で岡山市の最北端、岡山市北区建部町に位置します。主に、久米南町と岡山市（旧建部町）の人口約 9,100 人の地域を診療圏域としています。この地域には診療所（開業医）3 件と福渡病院しかなく、医療過疎地域です。地域医療構想が進む中で、地域包括ケアシステムの拠点病院として 52 床（一般 32 床、地域包括ケア病床 20 床）の病床と、訪問看護ステーション、血液透析施設を持ち、救急告示病院として誇りを持って地域医療に貢献しています。内科（一般及び各専門科）、整形外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、心療科等の外来診療と、月に 20 件以上の訪問診療を行っています。地域の介護施設の嘱託医・協力医療機関でもあります。岡山大学病院、岡山医療センター、川崎医大病院、岡山市立市民病院、岡山済生会病院等からさまざまな非常勤専門医の派遣を受け、地域での医療ニーズに応えています。地域のかかりつけ医として、医療と介護の連携、地域医療、地域包括ケア等のさまざまな経験ができる病院です。
指導医数 （常勤医）	日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医 1 人 （日本内科学会総合内科専門医 1 人、日本呼吸器学会指導医 1 人、日本呼吸器内視鏡学会指導医 1 人）
外来・入院患者数	外来患者　73.5 人（令和 6 年度 1 日平均）、入院患者　26.2 人（令和 6 年度 1 日平均）
病床	52 床（一般病床のみ）
経験できる疾患群	研修に必要な症例については、外来、入院、訪問診療などを通じて広く経験することとなります。プライマリ・ケアのみならず、複数の疾患を併せ持つケースの管理や治療方針の考え方についても学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を一般内科あるいは総合診療科的な枠組みのなかで経験していただきます。日常診療では、地域住民が主体の外来診療や入

	院診療のほか、内視鏡診断や透析医療には特に力を入れています。
経験できる地域医療・診療連携	上述のこと及び単に当面の症状に対する治療だけでなく、家庭的・社会的背景も考慮に入れた全人的な診療を行います。家族、院内スタッフ、地域のケアマネージャーや介護等サービス事業者と緊密な連携をとり、必要な医療を提供します。
学会認定施設（内科系）	常勤指導医（日本内科学会、日本呼吸器学会）在籍

5. 地方独立行政法人玉野医療センターたまの病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・地方独立行政法人常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・セクシャル・ハラスメント苦情処理委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，当直室，浴室が整備されています. ・病院内に病児・病後児保育室があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 8 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会，循環器研究会，消化器病研究会など）は基幹病院および玉野市医師会が定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	田端　雅弘 【内科専攻医へのメッセージ】 たまの病院は，回復期リハビリテーション病棟 50 床，障害者病棟 40 床，地域包括ケア病床 50 床，療養病棟 50 床 の合計 190 床を有し，「地域医療の拠点病院をめざし，急性期から亜急性期，回復期へと切れ目のない医療を実践することにより，地域包括医療の機能を有した病院として市民に安全と安心を提供し，健康と心の支えとなる病院運営に努めること」を基本理念としています. 本プログラムの中で特別連携施設として，地域医療を担う一員として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成することを一つの目標としています.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名，日本内科学会総合内科専門医 2 名， 日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名,日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 がん薬物療法専門医・指導医 1 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本老年医学会認定専門医 1 名
外来・入院患者数	2025 年度実績 総外来患者　92,505 名，総入院患者　65,482 名， 内科外来患者　45,266 名，内科入院患者　35,036 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例について，幅広く経験することができます．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについても学ぶことができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく，急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療．・残存機能を評価しリハビリテーションを行うと共に，多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整（退院調整）． ・在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診．それを相互補完する訪問看護との連携．ケアカンファレンスを通じたケアマネージャー等の介護と医療の連携． ・内科専門医として，必要な医療介護制度を理解し，『全身を診る医療』・『治す医療』だけではなく『支える医療』・『医療と介護の連携』など，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本老年医学会認定施設 日本内科学会認定教育関連病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会関連施設

6. 井原市立井原市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専門医の環境	・協力型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室（兼カンファレンス室）とインターネット環境（Wi-Fi）がある。 ・井原市立井原市民病院非常勤医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が井原市立井原市民病院内に設置されています。 ・女性専門医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・病院専用の保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専門医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 5 回）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）に定期的に参画し、専門医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である岡山市立市民病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画

	する CPC の受講を専門医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および井原市医師会が定期的に開催しており、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、呼吸器および救急などの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で１演題以上の学会発表（2014 年度実績　０演題）を予定しています。
指導責任者	山田　信行 【内科専門医へのメッセージ】 ・井原市立井原市民病院は岡山県南西部保健医療圏の井原市にあり、昭和３８年の創立以来、地域医療に携わる地域の中核的病院としての役割を担っており、在宅療養支援病院です。 ・本院のミッションは「地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する。」であり、初期及び二次救急医療を柱に、予防医療、急性期医療から回復期、慢性期さらには在宅医療、健診・ドックなど地域医療の幅広い領域に貢献し「地域とともに歩む、より愛される病院」を目指しています。 ・地域の拠点病院として、周辺の医療機関や福祉施設との連携を大切にしています。外来では、内科、循環器内科をはじめ 15 診療科により地域医療の拠点的役割を果たしています。 ・病棟では、医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種及び家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性を決定しています。 ①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰に力を注いでいます。 ・在宅の下支えとして、訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリテーション等も実施しています。
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会循環器専門医・老年病専門医　　１名 日本消化器病学会消化器病専門医　２名
外来・入院患者数	外来患者　　6、353 名（1 カ月平均） 入院患者　　3、562 名（1 カ月平均）
病床	１８０床　（稼動１３５床） 一般病床４５床、地域包括ケア病床４５床、医療療養病床４５床
経験できる疾患群	・研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、急性期、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。その中でも特に消化器、呼吸器、循環器、悪性新生物の終末期、感染症、代謝疾患を経験できます。 ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の受診が多いため、疾患のみを診るのではなくその治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	・内科専門医に必要な技術・技能を、一般病床、地域包括ケア病床及び療養病床の枠組みのなかで経験していただきます。上部及び下部消化管内視鏡検査技術の習得ができます。（年間約 3、000 例施行。） ・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時に入院診療

	へ繋ぐ流れ、反対に入院から在宅復帰へ繋ぐ流れを経験していただきます。
経験できる地域医療・診療連携	・当院は、医師、看護師、介護士、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、ＭＳＷによる他職種連携を行っており、チーム医療における医師の役割を研修していただきます。 ・入院診療については、かかりつけ医からの紹介患者や当院外来からの救急患者の診療、高度急性期病院から転院してくる引き続き治療・療養が必要な患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整を経験していただきます。 ・在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療、それを相互補完する訪問看護と訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションについて地域医療連携室を核とした調整・連携。施設へ入所する患者については、連携室を核とした医療と施設の連携について経験していただきます。 ・近隣の医療機関からの紹介や逆紹介における連携等、地域全体での医療連携の在り方を経験していただきます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

7. 矢掛町国民健康保険病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専門医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ･矢掛病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・宿泊施設を近隣に有しており、食事は院内で提供します。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専門医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 4 回）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･基幹施設である岡山大学病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専門医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および岡山県医師会が定期的に開催しており、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	名部　誠 【内科専門医へのメッセージ】 　矢掛町国民健康保険病院は小田郡矢掛町にあり、昭和 9 年の創立以来、地域医療に携わる、総合診療病院です．理念は「地域住民に信頼される病院」で、外来では内科・外科・整形外科・耳鼻科・眼科・婦人科・皮膚科・小児科・リハビリ科の地域の総合診療病院として、内科・外科および専門外来の充実に努め、救急医療体制や健診の充実にも努めています。

	一般病床としては、①外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰療養型病床①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援　を行っております。 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。
指導医数 （常勤医）	日本アレルギー学会指導医１名、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医１名、 呼吸器専門医１名、消化器病専門医１名、消化器内視鏡専門医１名
外来・入院患者数	外来患者 4366 名（1 ヶ月平均）　入院患者 103 名（1 日平均）
病床	117 床〈 一般病床 57 床　医療療養病床 60 床 〉
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	日々の診療の中で、大腸カメラ・上部消化管カメラ、気管支鏡、腹部超音波検査などの検査技術の研修もしていただきます。 当院の特徴は内科外科混合である一般病床・療養病床を持つ事です。診療にあたりながら、内科専門医に必要な技術・技能を小外科的処置も含めて、経験取得していただきます（外科医の指導を受けることが可能です）。 健診・健診後の精査、その後かかりつけ内科外来としての診療、必要時には入院診療へとつながる総合的な治療経過を経験研修する。 急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）や、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について患者については、本人のみならず家族とのコミュニケーションの取り方、かかりつけ医としての診療の在り方なども研修していただきます。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期治療を終え、在宅療養までの継続治療やリハビリ治療が必要な患者を、家族や、他職種の医療・看護・介護・行政関係者と協議し、今後の療養方針・療養環境の調整を行い、退院そして在宅療養にむけて、地域のクリニックの医師や、訪問看護ステーションなどと連携し、自宅療養が可能となるような調整を行う事を経験し、地域医療・診療連携の研修を行います。 在宅へ復帰する患者については、地域医療支援病院としての内科外来診療と訪問診療、アマネージャー、訪問看護ステーションとの連携が経験できます。 また、在宅療養患者の急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群（6 医療機関）の在宅療養支援病院としての緊急入院受入患者の診療にあたり、地域包括ケアシステムの中での内科医師としての役割を研修します。
学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会認定教育施設　日本がん治療認定研修施設 日本呼吸器学会関連施設

8. 高梁市国民健康保険成羽病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専門医の環境	初期臨床研修における地域医療研修施設です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 成羽病院非常勤医師として労務環境が保障されます。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 女性専門医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ハラスメント委員会（職員暴力、暴力担当窓口）が成羽病院内に設置されています。

認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が１名在籍しています。 内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専門医の研修を管理して基幹施設に設置されるプログラム委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 基幹施設である岡山市立市民病院で行うCPC（2014年度実績　5回）、もしくは日本内科学会が企画するCPC の受講を専門医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています. ・ 地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および岡山市医師会が定期的に開催しており、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をあたえています
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、および救急の分野では、高度ではなく、一次、二次の内科疾患、救急疾患を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	医師会あるいはメーカー主催の研究会や講演会に月に数回、内科学会および内科関連の学会等に年に１－２回行く機会があります。
指導責任者	鶴見尚和 【内科専門医へのメッセージ】 成羽病院は岡山県の高梁市にあり、備中高梁駅から車で西に約 15 分と比較的交通の便に恵まれた位置にあります。 一般病棟 54 床、療養型病床 42 床からなり、市内唯一の公立病院として住民の医療・保険・福祉を担っています。 岡山市立市民病院を基幹病院とする内科専門研修プログラムの特別連携施設として内科地域医療実習を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医１名、日本専門医機構認定総合診療専門医１名、
外来・入院患者数	内科外来　１８６０人/月 内科入院数　３５人/月
病床	一般５４床、医療型療養病床　４２床
経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります. 複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。 一般内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、が多いです。
経験できる技術・技能	上部、下部消化器内視鏡、腹部エコー、心エコー
経験できる地域医療・診療連携	健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ. 急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）. 複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について. 患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方. 晴れやかネットの本体機能、拡張機能（やまぼうし）を使用し、ICTでの医療介護福祉連携を体験できます 嚥下機能評価、および口腔機能評価（耳鼻科医師によります）による、機能に見合った食事の提供と危険防止への取り組み 褥瘡についてのチームアプローチ
学会認定施設 （内科系）	なし

9. 真庭市国民健康保険湯原温泉病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります. ・湯原温泉病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（各複数回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・基幹施設である※※市民病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および※※市医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています.
指導責任者	岡　孝一 【内科専攻医へのメッセージ】 湯原温泉病院は、岡山県北部の真庭市に位置します。北に国立公園蒜山があり、その南の湯原温泉に位置する地域唯一の病院です。64 年の歴史を有しており、現在は真庭市の市立病院として運営されているへき地医療拠点病院、在宅療養支援病院です。 病床は一般病床 50 床で、2 次救急告示病院として幅広い急性疾患に対応しています。医療療養病床 55 床で回復期、慢性期の診療にあたっています。 当地は過疎地で高齢者率の高い地域で、在宅医療のニーズが高く、併設の訪問看護ステーション、在宅介護支援事務所の力も加えて、在宅診療を強力に展開しています。また、介護保険事業として、通所デイ・ケア部門、訪問リハビリテーション活動も行っており、地域の健康・保健面に関する中核施設となっています。
指導医数 （常勤医）	・日本プライマリ・ケア連合会認定医・指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 2,297 名（1 ヶ月平均）　入院患者 52 名（1 日平均）
病床	105 床〈医療一般病床 50 床　医療療養病棟 55 床〉
経験できる疾患群	健康手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります. 複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます.

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能のうち、地域密着型病院ならではの事項を、外来、病棟、在宅などを通じて体験していただけます。 (1)患者の実生活により近い位置にある病院のため、患者の社会的背景を常に意識した診療態度を身につけていただけます。 (2)少数医師の病院のため、複数疾患、多疾患患者への対応方法を身につけていただけます。 (3)地域社会とつながりの濃い病院です。院内だけでなく、院外の多職種との連携作業を経験していただけます。 (4)高齢者や慢性期患者への診療、特に在宅移行や施設入所などの問題に関わっていただけます。
経験できる地域医療・診療連携	(1) 入院診療については、入院時より予後を見据えての早期の評価、退院後も考えた家族を含めた多職種連携した検討と準備を経験していただけます。 (2) 退院にあたっては、療養環境を整えるための家族を含めた多職種での検討と整備を経験していただけます。 (3) 地域の保健医療を支える行政の活動や介護を担う仕組み、介護施設や専門職の多様な働きを学んでいただけます。 (4) 学校保健、産業医、啓蒙活動などの対社会活動を学んでいただけます。
学会認定施設（内科系）	

10. 医療法人仁徳会　森下病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です。 ･研修に必要なインターネット環境（Wi－Fi）があります。 ･森下病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医）があります。 ･女性専攻医が勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・院内感染防止対策の講習会を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し 専攻医に受講をするための時間の余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･基幹施設である岡山市立市民病院で行う CPC（2014 年度実績　5 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および吉備医師会が定期的に開催しており、専門医に受講をするための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 救急の分野については、高度ではなく、一般的な疾患が中心となります。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	学会への参加については年 2 回学会費、交通費支給します。（上限 1 回 3 万円まで。）
指導責任者	森下　尚子

	【内科専攻医へのメッセージ】 ･森下病院は岡山県西南部医療圏の総社市にあり、昭和 29 年の創立以来、地域医療に携わる一般病院です。理念は「患者様の立場に立って信頼され満足される地域に密着した医療を提供します。」で、一般病棟、医療療養病床です。外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実にも努めています。 ･一般病棟としては①急性疾患患者の入院治療、医療療養病床としては、②急性期後の慢性期・長期療養患者診療、③慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。 ･在宅医療は、医師 1 名による訪問診療をおこなっています。病棟・外来・併設訪問看護ステーション・併設居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています。 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへつないでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　0 名、日本内科学会総合内科専門医　1 名 日本神経学会神経内科専門医　0 名
外来・入院患者数	外来患者 2189 人（1 ヶ月平均）　入院患者 62.2 人（1 日平均）
病床	72 床〈 医療療養病床 37　医療療養病棟 35 床 〉
経験できる疾患群	･研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ことができます。
経験できる技術・技能	･内科専門医に必要な技術・技能を、一般病棟、療養病棟で経験していただきます。 ･健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 ･急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 ･褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	･入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。 ･在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について。 ･地域においては、連携している特別養護老人ホームにおける診療と、急病時の診療連携、入院受入患者診療。 ･地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 ･地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	

11. 医療法人東浩会　石川病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員担当）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･ハラスメント委員会が石川病院内に設置されています。

	･２０１６年５月に新築移転し新しく、整った設備環境を整備しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である岡山市民病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕 を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度では なく一次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	石川　泰祐 【内科専攻医へのメッセージ】 医療法人東浩会（とうこうかい）石川病院は津山・英田医療圏の津山市にあり戦後間もない 1946 年 9 月に食糧事情、居住環境の悪い状況下において、疲弊した地域住民の疾病を治療し、健康の回復を目的として設立しました。爾来、津山東部地区を中心に「かかりつけ医」としての役割を担うべく、地域に根ざした信頼される医療機関を目指しています。石川病院をはじめとする東浩会各事業所の共通理念の根源は、『医療・看護・介護の基本は“人”であり、古来より赤ちゃんを慈しむ母の手にある』との想いです。 ①一般病棟地域包括ケア病棟２８床で亜急性期医療を中心に診療を行っています。②療養病棟４０床は療養病棟で医療区分２以上が９割で医療度の高い長期療養患者が中心です。③在宅部門では、県内で最初に在宅療養支援病院を取得し在宅医療（往診・訪問看護ステーション・居宅介護事業所）に力を注いできました。また、併設として老人保健施設入所定員５０名、通所リハ定員３０名の施設があり、各施設ともに連携をとりチーム医療を進めています。④人口透析内科として１２ユニットが稼働しています。
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会専門医　３名 日本消化器内視鏡学会専門医　１名
外来・入院患者数	外来患者数　68.2 名/日（１か月平均）　入院患者数 62.0 名（１日平均）
病床	一般病棟（地域包括ケア）２８床、医療療養病棟４０床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療、全身管理、今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を地域包括ケア病棟、療養病棟で地域の内科単科の病院という枠組みのなかで経験していただきます。地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について。患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方、かかりつけ医としての診療の在り方。
経験できる地域医	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必

療・診療連携	要な入院患者の診療、残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを 相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について。併設している老人保健施設の急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設

12. 岡山赤十字玉野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･岡山赤十字病院玉野分院非常勤職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当)があります。 ･ハラスメント事例には随時相談可能な体制があります。 ･休憩室、更衣室、シャワー室(浴室)、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･医療安全、感染対策における講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器の分野で 定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会あるいは同地方会への参加は可能ですが、演題の学会発表は予定していません。
指導責任者	江尻　東伍 【内科専攻医へのメッセージ】 岡山赤十字玉野病院は、岡山県南東部医療圏の玉野市にあり、昭和 22 年創立で、内科、リハビリテーション科、皮膚科の病院です。病棟は一般（地域包括ケア含む）と在宅復帰加算のある医療型療養病床になります。外来は、内科一般だけでなく専門外来や地域に少ない皮膚科を設置するなどして、健診・ドックも含め外来診療の充実を図っています。 急性期後のリハビリを行う回復期を担う一般病棟と医療型療養病床においては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者(自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者)の入院治療・在宅復帰に力を注いでいます。病棟・外来・併設居宅介護支援事業所・併設老人保健施設玉野マリンホーム(100 床)・併設通所リハビリテーション(35 人)との連携のもとに実施しています。 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師･各職員および家族を含めたカンファレンスを実施し、治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来担当医師・スタッフへと繋いでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会専門医・指導医　1 名、日本血液学会専門医・指導医　1 名 日本呼吸器学会専門医　2 名、日本アレルギー学会専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者 1、334 名（1 ヶ月平均）、入院患者 70.5 名(1 日平均)
病床	83 床(一般病床 11 床、地域包括ケア病床 30 床、療養病棟 42 床（実働 40 床）)
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養

	患者の診療を通じて、広く経験することとなり、複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などを学ぶことが出来ます。
経験できる技術・技能	評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期治療後の患者の受け入れから、慢性期療養、あるいは在宅復帰へ向けてのリハビリなども含め、今後の療養方針の考え方をトータルして経験出来ます。
学会認定施設（内科系）	

13. 笠岡市立市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・笠岡市立市民病院常勤医師として労務環境が保証されています。 ・安全衛生委員会が職員暴言，暴力担当窓口として院内に設置されています。令和４年度から警察官ＯＢを雇用しています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（開催予定）を定期的に参画し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である岡山大学病院で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専門医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会で計１演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	谷本　安（院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 笠岡市立市民病院は，内科を中心に整形外科，小児科,産婦人科，皮膚科，泌尿器科，リハビリテーション科を擁する岡山県井笠地区の基幹病院です。その基本理念は，‘市民の皆様から　世代を超えて永続的に　愛され　親しまれ　信頼される病院に’です。 急性期のみならず，亜急性期，慢性期の医療にも力を注いでいます。特に笠岡市が推進している地域包括ケアに積極的に参加し，医療介護連携の実効性あるシステム作りを目指しています。また，笠岡諸島の３つの診療所，在宅医療などを体験することができます。 また，チーム医療を推進しており，糖尿病療養指導チーム，呼吸器医医療チーム，栄養サポートチーム，感染コントロールチーム，がん医療サポートチームなど多種のチームに参加し，多職種との意見交換ができ，安心安全で質の高い医療が実践できます。
指導医数 （常勤医）	･日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医　　１名 ･日本呼吸器学会専門医・指導医　　１名 ･日本アレルギー学会専門医・指導医　１名 ･日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医　　１名 ・日本結核病学会認定医・指導医　　１名 ・日本老年医学会専門医・指導医　　１名
外来・入院患者数	外来患者数３３，３５２人（令和７年度実績） 入院患者数２８，１０４人（令和７年度実績）
病床	９９床（一般６０床、療養３９床）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験をすることとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。また，島しょ部診療所においてへき地医療についても学ぶことができます。
経験できる技術・技能	・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能など

	の評価） ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について ・患者本人のみならず家族とコミュニケーションの在り方 ・かかりつけ医としての診療の在り方 ・嚥下機能評価及び口腔機能評価による機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取組 ・褥瘡についてのチームアプローチ
経験できる地域医療・診療連携	・入院診療については，急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療 ・残存機能評価 ・多職種及び家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施に向けた調整 ・在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携 ・ケアマネージャーによるケアマネージメント（介護）と医療との連携について ・地域における産業医・学校医としての役割
学会認定施設 （内科系）	・日本呼吸器学会認定施設 ・日本アレルギー学会認定施設

14. 高梁中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・高梁中央病院常勤医師として労務環境が保証されています. ・メンタルヘルスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理（2025 年度実績 1 回）・医療安全（2025 年度実績 2 回）・感染対策講習会（2025 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績各 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 1 回　救急症例検証会 事後研修会）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器、呼吸器、腎臓、代謝、救急等の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 1 演題）をしています.

指導責任者	赤木　滋 【内科専攻医へのメッセージ】 高梁中央病院は岡山県の北西部に位置しこの地域の基幹病院としての役割を果たしており，岡山赤十字病院、岡山市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い内科専門医の育成を行っていきます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名 総合内科専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本透析医学会透析専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、~~日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名~~、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名、日本老年医学会老年科専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名
外来・入院患者数	平均 1 日患者数 294 名（外来）、153 名（入院）（2024 年度）
病床	160 床
経験できる疾患群	稀な疾患を除き，研修手帳（疾患群項目）にある 13 領域，70 疾患群の症例のうち，特に当院の患者層の多くを占める高齢者に多い疾患につき幅広く経験できます．高齢者は内科的疾患のみならず多科にわたり複数の疾患を併せ持つことが多いため，個々の疾患を単に診るのではなく，全身を総合的に診る眼を養っていきます.
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な様々な技術・技能を幅広く経験することができます。併せて高齢者に特有の終末期ケア、認知症ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害時の栄養管理なども総合的に学習できます。
経験できる地域医療・診療連携	かかりつけ医や専門的治療を行う基幹施設との連携、また老健施設、訪問看護部門との連携、ケアマネージャーなどを含めた地域医療介護連携を重視しています。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導連携施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

15. 総合病院落合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 常勤医師(有期雇用)として労務環境が保証されています。 メンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント委員会が院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 4 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理（2024 年度実績 2 回）、医療安全（2024 年度実績 2 回）、感染対策講習会（2024 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（救急症例検証会 事後研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、腎臓および救

【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 4 演題）をしています。
指導責任者	内科専攻医へのメッセージ】 井口泰孝 落合病院は岡山県真庭医療圏の真庭市にあり，昭和１２年の創立以来，地域医療に携わり「地域に密着し、安全で質の高い医療を提供します」を理念とする総合病院です。内科、外科、産婦人科、小児科など 13 の診療科を標榜し、糖尿病内科、循環器内科、腎臓（ＣＡＰＤ）内科、肝臓病内科、助産師外来、禁煙外来等の専門外来も積極的に行っています。 なかでも透析(腎センター50 床)、産婦人科、小児科は真庭医療圏で唯一当院が担っています。これらに加え、予防から在宅まで対応すべく人間ドック及び各種検診も広く実施し、在宅ケアは、訪問診療、訪問看護の在宅診療や訪問リハビリも行っています。また、岡山県真庭医療圏の災害拠点病院にも指定されており院内にはヘリポートを備え各大学病院や県南の高度先進医療を担う病院との強力な連携と、近隣の病院・医院・他施設との密接な連携を図りつつ県北の救命救急医療に貢献しています。落合病院は地域に密着し安全で質の高い医療を提供し、「安心して暮らせる、住みやすい街づくり」を目指しています。 内科以外にも産婦人科外来、病棟、新生児室、他に小児科、救急受入の研修ができる。超音波検査、上部・下部内視鏡検査については検査補助を務める。また当院内の健康管理部での研修を組み込んでいる。また、訪問診療、訪問看護ステーション等で在宅医療の研修を行い、週に１度の割合で併設の介護施設での研修も可能である。 複合型（一般・救急・在宅・介護施設）研修方式を活かし，さまざまな研修を行なうとともに関連他科との診療も体験することが出来る。積極的に地域の研究会に参加し、多くの情報を得ている。 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性，在宅療養の準備を進め，外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます.
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会専門医２名 日本消化器内視鏡学会認定専門医１名 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医１名 日本透析医学会専門医・指導医　１名 日本肝臓学会肝臓専門医１名 日本抗加齢学会専門医１名
外来・入院患者数	外来患者　　6,611　名（令和 7 年度１ヶ月平均延数） 入院患者　　3,251　名（令和 7 年度１ヶ月平均延数）
病床	135 床　（稼動　135 床）
経験できる疾患群	稀な疾患を除き、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例のうち、特に当院の患者層の多くを占める高齢者に多い疾患につき幅広く経験できます。高齢者は内科的疾患のみならず多科にわたり複数の疾患を併せ持つことが多いため、個々の疾患を単に診るのではなく、全身を総合的に診る眼を養っていきます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な様々な技術・技能を幅広く経験することができます。併せて高齢者に特有の終末期ケア、認知症ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害時の栄養管理なども総合的に学習できます。
経験できる地域医療・診療連携	かかりつけ医や専門的治療を行う基幹施設との連携、また老健施設、訪問看護部門との連携、ケアマネージャーなどを含めた地域医療介護連携を重

	視しています。
学会認定施設 （内科系）	日本透析医学会教育関連施設

16. 赤磐医師会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ・インターネット接続環境ならびに図書室を備えています. ・当院常勤医師として労務環境が保証されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，休憩室，当直室が整備されています. ・病院近隣に社宅があり，利用可能です. ・敷地内には院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名常勤として在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回）しており，受講して頂きます. ・CPC は基幹研修施設で実施される合同カンファレンスへ参加するための時間的余裕を確保します. ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績　赤磐医師会学術講演会年 9 回）を定期的に開催しており，参加して頂きます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、アレルギーおよび膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学科発表を予定しています。
指導責任者	灘　隆宏 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は赤磐市唯一の急性期病院で、高齢者を中心に様々な疾患の患者さんが訪れます。地域特有の諸問題と向き合いながら幅広く経験が積める、岡山市内から通いやすい病院です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会　総合内科専門医 1 名，日本消化器病学会　専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会 専門医 4 名，日本肝臓学会 肝臓専門医 1 名，日本消化管学会 胃腸科認定医 1 名，日本超音波医学会 超音波専門医・指導医 1 名，日本腎臓病学会 腎臓専門医 1 名，日本糖尿病学会 糖尿病専門医 1 名，日本透析医学会 専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者　4,070　名（1 ヶ月平均、2025 年度実績） 入院患者　　167　名（1 日平均、2025 年度実績）
病床	245 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域・70 疾患群の症例のうち、半年から 1 年間の研修で、50 前後の疾患群を経験することが期待できます.
経験できる技術・技能	中心静脈カテーテルの挿入、胸腔穿刺などの観血的な処置も経験できます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期はもちろんのこと、様々な形での終末期医療を経験することができます. 病診・病病連携は日常的に行われています.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

	日本超音波医学会認定専門医研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本糖尿病学会教育関連施設 I

17. まび記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です。 ･研修に必要な医局（書籍類）とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ･まび記念病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ･ハラスメント（職員暴言・暴力担当窓口）に関する部署が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・病院敷地内に保育園施設があります。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 1 名以上在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および吉備医師会および倉敷市連合医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定します。
指導責任者	棗田将光 【内科専攻医へのメッセージ】 特にリウマチ膠原病分野においては専門手知識と技術の習得が可能となり、患者様満足度向上に社会貢献できる。
指導医数 （常勤医）	総合内科専門医　1 名、リウマチ科指導医・専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者 7,220 名（1 ヶ月平均）　入院患者 80 名（1 日平均）
病床	80 床（うち地域包括ケア病床 40 床）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、一般病床であり、かつ地域の病院という枠組みのなかで、経験していただきます。 リウマチ診療、関節エコー、関節穿刺。

	健診・健診後の精査・地域の医療としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について。患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 嚥下機能評価にもとづく、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み。 その他、褥創に対してのチームアプローチ、NST、がんリハビリテーション、透析医療。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。 在宅へ復帰する患者については、地域の一般病院としての外来診療と関連施設による訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護、医療との連携について。 地域においては、法人内の介護施設（サービス付き高齢者住宅）および提携介護施設における訪問診療と急病時の診療連携、クリニックの在宅療養支援病院としての入院受入患者診療。法人内および地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	

18. **金田病院**

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･金田病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ･ハラスメント委員会が金田病院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が3名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画しています.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 消化器、呼吸器、血液領域は専門医が在籍しています。真庭圏域の二次救急医療機関であり、域内の救急症例を経験できます.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	水島孝明 【内科専攻医へのメッセージ】 金田病院は岡山県の県北真庭地域の中心的な急性期病院であり、岡山市立総合医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名（複数の専門医資格を持つ医師の重複あり）
外来・入院患者数	年間新外来患者数　　5807 名　（2025 年度） 年間入院患者実数　　1421 名　（2025 年度）
病床	120 床(一般病床 60 床・地域包括ケア病床 38 床・医療療養病床 22 床)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、訪問診療、他の医療機関や施設との連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本血液学会認定研修教育施設 日本呼吸器学会教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

19. 中島病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です. ･研修に必要な図書とインターネット環境があります. ･中島病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります. ･ハラスメント（職員暴言・暴力担当窓口）に対応する担当者が設置されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室、寮が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専攻医研修の担当医を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスへの参加・受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･基幹施設である津山中央病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および津山市医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、糖尿病および肝臓の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります.
認定基準 【整備基準 24】	糖尿病学会および講演会、骨粗鬆症学会および講演会に年間で 5～6 演題以上発表をしています.

4)学術活動の環境	・2020 年度　和文誌へ 2 報論文発表（COVID のため発表は辞退） ・2021 年度　英文誌へ 2 報論文発表
指導責任者	中島　弘文 【内科専攻医へのメッセージ】 （医）和風会中島病院は岡山県津山・英田医療圏の津山市にあり，明治 11 年の創立以来，地域医療に携わる，内科単科病院です．「私達は、地域に信頼される内科専門病院として、良質な全人的医療を提供いたします。」という理念をもとに，急性期から療養まで、地域に密着した医療を提供する病院です。外来では内科一般および専門外来の充実および健診の充実にも努めています． 一般病棟は、DPC 病院として急性期の患者を対象とした医療を行い、医療療養病棟では，①急性期後の慢性期・長期療養患者診療，②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行い、また医療療養病棟内にある地域包括ケア病床では①急性期を経過した患者の在宅復帰支援、②外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰，③在宅患者（自院の在宅患者，および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰，に力を注いでいます． 同じ法人内には、訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所があり、病院と連携してよりよい在宅生活を目指しています． 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性，在宅療養の準備を進め，外来・在宅担当スタッフへとつないでいます．
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会専門医　1 名　脳神経外科専門医　1 名　日本脳卒中学会認定脳卒中専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者　34,213 名（令和 6 年度年間延数） 入院患者　30,522 名（令和 6 年度年間延数）
経験できる疾患群	2023 年度の年間入院患者症例数として、呼吸器系疾患（218 例）、新生物（悪性新生物）（196 例）、消化器系疾患（118 例）、循環器系疾患（103 例）、内分泌・栄養および代謝疾患（85 例）　その他神経系疾患、腎尿路生殖器系疾患
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，地域の内科単科の病院という枠組みのなかで，急性期から在宅復帰まで経験していただきます． 地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ． 健診・健診後の精査・大学病院等への紹介、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）．複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について．患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方． 嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）による，機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み． 糖尿病患者・呼吸器疾患患者・褥瘡患者・緩和ケアを必要とする患者についてのチームアプローチ． 技術としては、上部・下部内視鏡検査、ポリペクトミー、エコー検査、透視等
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については，急性期後の治療・療養が必要な入院患者の診療．残存機能の評価，多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整． 在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療，訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について． 地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，連携型在宅療養支援診療所群（2 医療機関）の入院受入患者診療． 地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携． 地域における産業医・学校医としての役割．

学会認定施設 （内科系）	認定施設はありません

20. 脳神経センター大田記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度における協力型臨床研修病院です。 ・医局内に国内外の図書があり研修に必要なインターネット環境があります。 ・専攻医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室や更衣室等が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。 ・院内に研修委員会を設置しており、専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行われる CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 領域のうち、とくに神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2025 年度実績 日本内科学会 中国地方会 1 件）
指導責任者	寺澤由佳 脳神経内科部長 【内科専攻医へのメッセージ】 脳神経センター大田記念病院は広島県福山市にある備後地域（広島県東部および岡山県西部）の救急医療および急性期医療の中核をなす 199 床の医療機関である。備後地域の脳神経疾患の約 7 割の患者を診療しており、脳卒中、てんかん、脳炎や免疫疾患などの急性期疾患に加え、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの難病患者も多く診療している。 特に脳卒中治療は超急性期治療において地域の中心として活動しており、血管内治療においては脳神経内科と脳神経外科の共同チームで治療にあたっている。2018 年度からは回復期病棟が開設され、超急性期から回復期・維持期・生活期全体までの診療の流れを学ぶことができる。SCU を全国でも有数の 24 床有しており、他職種とのチーム医療体制も構築されているため、医師としてのチーム医療への関わりも学習できる。また、循環器内科の充実により冠動脈疾患、末梢動脈疾患にも対応した血管センターとしても機能しており、全身の血管病に関する知識習得も可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名，日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 11 名 日本血液学会血液専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者延べ数　39,005 人/年（2025 年度実績） 入院患者数　2,174 人/年（2025 年度実績）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域分野のうち、神経の分野で超急性期から回復期・維持期・生活期全体まで広く経験することができます。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことできます。

経験できる技術・技能	指導医・上級医による指導をうけながら、主治医として外来・入院診療の研鑽を積む。脳神経内科症例検討会を通じて脳神経内科の考え方や知識を学び、必要な診断方法や治療方針を習得していく。また、主治医ではなくとも、カンファレンスや総回診を通じて幅広い疾患に対する理解と経験を深める。検査業務については、指導の下に適切に施行出来るようにする（脳波・電気生理、脳神経超音波検査、高次脳機能検査、自律神経検査、その他希望に応じて神経放射線検査、血管内治療、嚥下造影など）。脳卒中に関しては経静脈的血栓溶解療法や血管内治療などの超急性期治療から SCU での全身管理、再発予防やリスク管理などまで広く学ぶことができる。また、SCU では多職種チーム医療の中心的な役割を担う医師としての役割も学ぶことができる。難病の診療においては最新の知見に基づく治療に加え、進行期の難病患者の全身管理や各種サービスを利用して在宅医療をどのように維持していくかなど社会的な資源についても学ぶことができる。指導医や上級医の指導の下、各種書類を適切に記載する。医療安全・医療倫理の講演会には積極的に出席する。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期治療後の治療・療養が必要な患者の診療・残存機能の評価、多職種および家族とともに今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整など。当院では 2008 年から脳卒中地域連携パスを積極的に導入し、連携医療機関との情報交換を密に行い、地域完結型の脳卒中医療を実践することにも力を入れている。また、難病診療においても、周辺医療機関等との連携強化、研修等の実施を行っており、希望があれば介護施設への往診なども経験できる。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、 日本神経学会認定教育施設、 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設、 日本臨床神経生理学会 認定施設 （教育施設：脳波分野、筋電図・准教育施設：神経伝導分野） 日本認知症学会認定教育施設 日本てんかん学会研修施設

21. 社会医療法人石川記念会 HITO 病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務人事課担当）があります。 ･ハラスメント委員会が総務人事課に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医は5名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2020年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（症例検討会 2020 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 9 分野で定常的に専門研修が可能

【整備基準 24】 3)診療経験の環境	な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	五十野博基 【内科専攻医へのメッセージ】 HITO 病院は愛媛県東部の宇摩医療圏で最も多くの救急患者を受け入れしている急性期病院であり、第一線の臨床の場で研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医10名 日本消化器病学会消化器専門医4名、日本肝臓病学会専門医1名 日本循環器学会循環器専門医1名、日本糖尿病学会専門医2名、 日本内分泌学会専門医0名、日本腎臓病学会専門医0名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医0名、日本血液学会血液専門医0名、 日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー学会専門医（内科）0名、 日本リウマチ学会専門医0名、日本感染症学会専門医0名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者延べ数　65990 人/年（2020 年度実績） 入院患者数　83035 人/年（2020 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある3 領域、9 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本専門医機構 総合診療専門研修基幹施設 日本専門医機構 総合診療専門研修連携施設（愛媛大学・徳島大学） 日本内科学会連携施設（愛媛大学・徳島大学・香川大学・住友別子病院・北摂総合病院） 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会研修関連施設 日本胆道学会指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本神経学会 准教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本人間ドック学会健診研修施設

22.倉敷成人病センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する委員会（安全衛生委員会）が整備されています。 ・ハラスメント防止に取り組む委員会（安全衛生委員会）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 12 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、感染症、救急などの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	梅川　康弘 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は内科の受診者が多い医療機関ですが、手術のために入院される方も非常に多いです。その中には合併症を持った患者さんも多く、内科の併診が必要です。内科医の仕事は非常に重要で、かつ多岐にわたります。　それだけに、またやりがいもあります。急患対応にも力を入れており、意欲ある専攻医を待っています。初診外来や救急外来で診た患者さんを入院させて精査、治療し、退院後も自分の外来で経過を見るというようなことができるのは中規模病院ならではと思います。 当科の特徴としては、一つには SLE などの膠原病や関節リウマチの患者さんが多いことです。また、呼吸器系、消化器系については内科、外科ともに複数の専門医・指導医が在籍しており、症例は多いです。以前、来ていただいた消化器内科専攻医は内視鏡検査をたくさんさせてもらったと喜んでいましたよ。 今年度のトピックスとしては、糖尿病専門医・指導医が着任し、認定教育施設を申請したことが挙げられます。通院している糖尿病患者さんはとても多いです。さらに、年間 1400 件程度の分娩がありますので、妊娠糖尿病や周産期に関連した内科疾患が経験できることは特筆すべきでしょう。 循環器、腎臓、血液、脳神経については常勤の専門医がおりませんが、大学病院からの非常勤医師が勤務されていますので、十分研修できると思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会認定内科医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本消化器病学会専門医 7 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、

	日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本老年医学会老年科専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、日本透析医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	2025 年度内科新外来患者数　10,182 名 2025 年度内科新入院患者数　1,876 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。他施設では稀なリウマチ膠原病症例はとくに多数を経験できます。 分娩数が多いため、妊娠・周産期関連の症例を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。法人グループ内の健診センターでの診療も経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本医学放射線学会認定放射線専門医修練機関 日本超音波医学会認定研修施設 日本病理学会認定研修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本 IVR 学会認定専門医修練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ

岡山市立市民病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和８年４月１日現在）

岡山市立市民病院

洲脇　俊充（内科研修委員会委員長、呼吸器・アレルギー内科分野責任者）
岸田　雅之（プログラム統括責任者、内分泌内科分野責任者総合内科 I/II/III・救急・感染症分野責任者）
河合　勇介（副プログラム統括責任者、循環器内科分野責任者）
今城　健二（病院長）
能祖　一裕（学術部長）
狩山　和也（副院長、肝臓内科分野分野責任者）
加藤　博也（消化器内科分野責任者）
出口　健太郎（脳神経内科分野責任者）
山本　和彦（血液内科分野責任者）
若林　宏（膠原病リウマチ内科分野責任者）
片山　祐（膠原病リウマチ内科分野責任者）
安藤　晋一郎（糖尿病内科分野責任者）
滝上　慶一（腎臓内科分野責任者）
的場　賢治（事務局代表、法人本部人事課　課長補佐、卒後臨床教育研修センター担当）

連携施設担当委員

岡山大学病院	大塚　文男
倉敷中央病院	石田　直
重井医学研究所附属病院	山本　直樹
倉敷市立市民病院	江田　良輔
広島市立広島市民病院	植松　周二

姫路赤十字病院	筑木　隆雄
香川県立中央病院	川上　公宏
三豊総合病院	神野　秀基
中国中央病院	牧田 雅典
福山市民病院	植木　亨
高知医療センター	岡本 宣人
大垣市民病院	森島　逸郎
独立行政法人労働者健康安全機構岡山ろうさい病院	矢野　朋文
社会医療法人光生病院	吉本　靜雄
岡山市立せのお病院	臼井　正明
美作市立大原病院	塩路　康信
玉野市立玉野市民病院	山原　茂裕
井原市立井原市民病院	中原　康夫
高梁市国民健康保険成羽病院	鶴見　尚和
真庭市国民健康保険湯原温泉病院	岡　孝一
岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院	堀内　武志
矢掛町国民健康保険病院	名部　誠
医療法人東浩会石川病院	佐藤　政隆
岡山赤十字玉野病院	江尻　東伍
笠岡市立市民病院	谷本　安
医療法人清梁会高梁中央病院	赤木　滋
医療法人井口会総合病院落合病院	井口　泰孝
赤磐医師会病院	藤原　敬士
医療法人和陽会まび記念病院	村松　友義
社会医療法人緑壮会金田病院	水島　孝明
特定医療法人和風会中島病院	中島　弘文
社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院	寺澤　由佳
社会医療法人石川記念会ＨＩＴＯ病院	五十野　博基
一般財団法人倉敷成人病センター	梅川　康弘
岩国医療センター	田中屋　真智子
地方独立行政法人玉野医療センター　たまの病院	田端　雅弘
住友別子病院	松原　稔

別表 1　　岡山市立市民病院疾患群症例病歴要約到達目標（各年次到達目標）

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること.

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする.

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める.（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する.
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専門医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登

録が認められる.

別表 2

岡山市立市民病院内科専門研修　　週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8：15～ 循環器内科新入院カンファ 8：30～ 消化器内科新入院カンファ（7 東） 8:30～ 糖尿病内科カンファ（医局） 8:30～ 呼吸器内科カンファ（医局）	7:20～7:50 循環器疾患レクチャー（隔週） 8:15～ 循環器内科新入院カンファ 8：30～ 消化器内科新入院カンファ（7 東） 8:30～ 糖尿病内科カンファ（医局） 8:30～ 呼吸器内科カンファ（医局） 8:45～ リウマチ膠原病内科回診	8:00～8:30 肝癌カンファ（第 1・3 週，中会議室） 8：15～ 循環器内科新入院カンファ 8：30～ 消化器内科新入院カンファ（7 東） 8:30～　糖尿病内科カンファ（医局） 8:30～ 呼吸器内科カンファ（医局）	8:15～ 循環器内科新入院カンファ 8：30～ 消化器内科新入院カンファ（7 東） 8:30～ 呼吸器内科カンファ（医局） 9：00～10:00 ORaNNDGE カンファ	8:15～ 循環器内科新入院カンファ 8：30～ 消化器内科新入院カンファ（7 東） 8:30～ 呼吸器内科カンファ（医局）
午後	14:00～ 呼吸器内科カンファ（8 西） 16:00～ 膠原病リウマチ内科カンファ 総合内科サインアウトミーティング 16:40～　糖尿病症例カンファ（5 西）	14:00～ 呼吸器内科カンファ（8 西） 15:00～ 循環器内科カンファ 16:00～ 膠原病リウマチ内科カンファ 総合内科サインアウトミーティング	13:30～ 呼吸器内科新入院カンファ（医局） 13:30～ 血液内科カンファ（8 東） 14:00～ 気管支鏡検査（後入院カンファ） 内分泌疾患カンファ 16:00～ 消化器内科カンファ（7 東） 16:00～ 膠原病リウマチ内科カンファ 総合内科サインアウトミーティング	14:00～ 呼吸器内科カンファ（8 西） 15:00～ RST ラウンド 15:00～ 感染症カンファ 16:00～ 膠原病リウマチ内科カンファ 総合内科サインアウトミーティング	13:00～ 糖尿病内科ランチョン抄読会（4 階 EV 前ラウンジ） 13:30～ 血液内科カンファ（8 東） 14:00～ 気管支鏡検査（後入院カンファ） 14:30～15:30 消化器内科総合回診（7 東） 15:30～ 消化器内科カンファ（7 東） 16:00～ 膠原病リウマチ内科カンファ 総合内科サインアウトミーティング
夜間	**17:10～17：45** **内科医局カンファ** **エキスパートレクチャー** **（第 1・3 週）** 18:00～ 各科合同消化器カンファ		17:30～ 内視鏡カンファ（内視鏡室）	17:00～ 血液内科カンファ（8 東）	

★ 岡山市立市民病院内科専門研修プログラム　４．専門知識・専門技能の習得計画　に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調

整・変更されます。
・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。
・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。
・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。